

82-580



理學士山上萬次郎述

第四篇

山地理教科書備考

東京 大日本圖書株式會社

明治  
39 11 14  
丙交

# 上山地理教科書備考

第四篇

## 目次

一	緒言	一
二	最近統合地理編纂上著者の用意	三
	甲 材料の選擇	三
	乙 材料の排列	七
	丙 地理教科書の訂正	一一
三	舊著最近地理教科書の絶版	一六
四	新著最近統合地理の系統	一八
五	教授資料	二二

目次

(甲) 帝國地理の部

- 一 樺太南部の面積……………二二
- 二 南日本の脊梁山脈の名稱……………二二
- 三 盆地……………二三
- 四 我が國の最低氣温……………二三
- 五 重要鑛産物産額……………二三
- 六 東京府に關する事項……………三六
- 七 神奈川縣に關する事項……………三七
- 八 埼玉縣に關する事項……………四〇
- 九 千葉縣に關する事項……………四〇
- 一〇 茨城縣に關する事項……………四一
- 一一 栃木縣に關する事項……………四二

- 一二 群馬縣に關する事項……………四三
- 一三 奥羽の總記に關する事項……………四四
- 一四 福島縣に關する事項……………四五
- 一五 宮城縣に關する事項……………四六
- 一六 岩手縣に關する事項……………四六
- 一七 青森縣に關する事項……………四八
- 一八 秋田縣に關する事項……………四九
- 一九 山形縣に關する事項……………五〇
- 二〇 本州中部の總記に關する事項……………五〇
- 二一 長野縣に關する事項……………五一
- 二二 新潟縣に關する事項……………五四
- 二三 山梨縣に關する事項……………五五

二四 静岡縣に關する事項……………五六

二五 愛知岐阜二縣に關する事項……………五七

二六 富山石川福井三縣に關する事項……………五七

二七 滋賀縣京都大阪二府に關する事項……………五八

二八 奈良三重和歌山三縣に關する事項……………五九

二九 兵庫縣に關する事項……………六〇

三〇 中國地方に關する事項……………六一

三一 四國に關する事項……………六三

三二 福岡佐賀長崎熊本四縣に關する事項……………六四

三三 大分宮崎鹿兒島沖繩四縣に關する事項……………六六

三四 臺灣に關する事項……………六八

三五 北海道及び樺太に關する事項……………六九

三六 人文地理住民に關する事項……………七二

三七 人文地理生業に關する事項……………七三

三八 人文地理交通に關する事項……………七四

三九 人文地理政治に關する事項……………七六

四〇 韓國及び關東州租借地に關する事項……………七八

(乙)外國地理の部……………八三

一 韓國に關する事項……………八三

二 清國に關する事項……………八五

三 アジャロシヤ及び西部アジャに關する事項……………八八

四 南部アジャに關する事項……………九〇

五 大洋洲に關する事項……………九一

六 ヨーロッパに關する事項……………九三

七 アフリカに関する事項……………九五

八 北アメリカに関する事項……………九六

九 南アメリカに関する事項……………九七

一〇 人文地理通説に関する事項……………九八

(丙) 地文の部……………一〇一

一 地球星學に関する事項……………一〇二

二 陸界に関する事項……………一〇二

三 氣界に関する事項……………一〇九

四 水界及び地殻に関する事項……………一一〇

六 教師用參考書……………一一一

追加外國之部……………一二〇

上山地理教科書備考

第四篇

挿圖版 目録

一 桑畑段別割合……………四三

二 信濃國の盆地……………五一

三 長崎縣の輪廓……………六五

四 阿蘇山の圖……………六六

五 國東半島の輪廓……………六七

六 小樽港の位置……………六九

七 碎氷船……………八九

八 三大山脈の比較……………九三

九 アンコーベル……………九五

一〇 直射圖法の地平投影を作る手續……………別刷

一一 山風・谷風の起因……………一〇九

一二 三本繋ぎの龜裂……………一一〇

一三 三本繋ぎ龜裂の實驗……………一一〇

# 山地理教科書備考 第四篇

山上萬次郎述



## 一 緒言

我が國に於ける地理學、特に教育に適用したる地理學は、今や革●新●の●機●運●に●際●會●せ●る●も●の●な●り●。●切●れ●／＼●な●る●地●文●的●人●文●的●事●實●を●或●る●原●理●の●下●に●融●化●し●或●る●法●則●の●下●に●統●合●し●以●て●意●義●あ●り●生●命●あ●る●學●問●と●な●さ●ん●こ●と●は●現●時●代●の●新●要●求●な●り●き●。●勿●論●地●文●的●事●實●相●互●の●間●に●は●科●學●上●の●原●則●あ●り●人●文●的●事●實●相●互●の●間●に●は●社●會●學●上●の●原●則●あ●り●て●こ●れ●を●融●化●し●統●合●す●る●こ●と●は●前●時●代●に●於●て●已●に●著●き●發●達●を●見●た●り●と●雖●も●こ●れ●を●教●授●上●に●應●用●す●る●に●至●り●て●は●尙●幾●多●の●遺●憾●な●き●を●免●れ●ざ●り

き。況んや地人の關涉觸接より生ずる現象を説明すべき原則の應用に於てをや。偶々これを試みしものありと雖も、或は揣摩臆測、或は牽強附會、科學上何等の基礎なく、社會學上何等の根柢なき極端なる統合主義の普及に陥りし外には、着實に、公平に、穩健なる統合主義の實行を以て、現時代の新要求に答へんとせしもの、未だ嘗てあらざりき。

我が國に於ける地理學、特に教育に適用したる地理學發達の現状は、斯くの如し。これを他の諸學科に比して、其の進歩の遙かに後れたるは、争ふべからざる事實なり。天下もし地理學に多大の趣味を有し、これに對する著述を以て、半生の事業となせるもの、果してこれありとせば、如上の状態に對して、豈無限の感慨なきを得んや。是に於て乎、著者は、現時の要求に應ずべき統合地理學建設の志を起し、組織の構成、材料の蒐集に、幾多の苦心を積み、一昨年の秋、機漸く熟し、始めて筆を中等學

校の教科書に著け、爾來拮据經營、茲に漸く一段の成功を見るに至れり。

## 二 最近統合地理編纂上著者の用意

### 甲 材料の選擇

地文・人文上の概念を得るに緊切なる材料を採用せること。地理學の如く、範圍の廣濶なる學問に於て、材料を選擇することは、甚だ困難なり。教科書に於て、特に其の然るを見る。著者の寡聞淺學、未だ以て現代の求むる所に應ずるに足らざるは、固よりこれを知れり。然れども、力めて正確なる材料を探り、就中地文・人文上の脊梁を構成せる事項を列舉し、學生をして、一讀天然の地形と現時の國勢とを、掌中に指すの思あらしめんことを期し、特に地圖挿畫統計及び統計圖に在りては、最も多大の注意を拂ひたり。

地圖に就いて。天然の地形を通覽せしむるに、最も便利なるものは地圖なり。然れども、もし其の地圖にして、不正確ならん乎。却て世を誤るを免れず。夫れ細密を貴ぶの弊、地形表示の明瞭を缺くは、固より不可なり、然れども、又簡明を主とする極、輪廓位置の不正確を顧みざる如きことも、斷じて容すべからず。著者が今回編纂せし地圖は、其の輪廓位置の正確明瞭なるは、勿論、陸地の高低、海洋の深淺より、運輸通信の經路に至るまで、凡て地圖の要求する必要條件は、成るべく最も完全に成るべく最も鮮明に、描出せんことを期し、又局部局所の地形に至りては、必要に應じ、本文の各地方誌中に、切圖として挿入し、一般の地圖と相待て、隔靴搔痒の感なからしめんことに力めたり。

挿圖に就いて。天然の地形を知るに、地圖の必要なるは、論を俟たずと雖も、餘りに概括抽象に過ぎて、詳細なる實況を想像し易からざる恐

れあり。是に於て乎、水陸地物の風景形狀等は、別に寫眞繪畫を以て、本文中に表示するの必要を見る。これを缺くものは、未だ以て地理教科書最近の體裁を具へたるものと謂ふを得ず。特に人民生活の狀況、風俗慣習の異同等に至りては、寫眞繪畫の力を藉るに非ずんば、到底了解し易からずとす。故に最新の寫眞、若しくは實物により、精巧なる木版に彫刻し、極めて饒多にこれを挿入せり。著者は、所謂寫眞網版を排斥するものには非れども、坊間普通の印刷は、此の種の版に於て、特に鮮明を缺くの恐れあり。實物によらずして、一旦模寫せしものより、複製したる寫眞網版にありては、特に然りとす。故に著者は、手數の煩雜と、工作の困難とに於て、精巧なる木版が、彼の寫眞網版に數十倍なるをも顧みず、全くこれを採用せり。又徒らに挿畫の數を多くし、版積を大ならしむるとも、學術上、教育上の目的に副はざるものは、これを排斥し、特に



鳥●眼●圖●的●繪●畫●を●必要●に●應●じ●て●成●る●べ●く●挿●入●し●以●て●表●示●す●べ●き●目●的●物●  
全體の大部分を通覧し得ることとせり。

統計及び統計圖に就いて。統計數字は、國勢を知るに、一刻も缺くべからざる材料なり。其の材料にして、不確實のものならんには、讀者を誤ること論を待たず。故に著者は、最新にして、最確なる統計材料を蒐集し、適宜にこれを取捨折衷し、以て正確なる現時の國勢を示さんことを勉めたり。然れども、由來、無味乾燥は、統計數字の常例なり。且つ單にこれを臚列したるのみにては、學生の概念を形成し、記憶に留むること能はず。是に於て乎、著者は、特種の統計圖を創製し、視覺に訴へて、國勢の大小強弱を比較通覧するの用に供し、無味乾燥の數字を化して、趣味あり、意義あるものと、變ぜしめんことを期せり。

## 乙 材料の排列

一、統●合●主●義●の●採●用●。全篇讀過の後、腦中に殘る所のものは、紛雜極りなき零片斷節のみにして、系統ある觀念に至りては、杏として、模索すること能はざるもの、これ本邦に於ける地理教科書の通弊なり。著者は、時代の要求に鑑み、斷然、統合主義を採用して、首尾貫徹せる地理教科書の編述を試みたり。されば、これを讀まんもの、讀過の後、必ず或る概念の明かに腦中に存在するを感ずべし。然れども、著者は、穩健なる統合主義を採り、奇矯なる臆斷統合を排斥し、今日の學說上未定のものは、これを未定の儘に存置し、苟も世を誤ることなきを期せり。

地理學は、又一面學生の常識を養成する目的を有す。故に統合上の目的より云ふときは、假令ひ、さしたる必要なきものと雖も、日常生活上

の知識として知らしめ置くを要する事項は、特にこれを存置せり。

次に、教科書は、其の特色として、大に文章を簡潔にし、冗漫なる文字を削減し、教師をして説明の餘地を有せしむるを要す。其の必要より、著者は、常に骨節の記述を主とし、筋血の記述を従としたるを以て、原因結果の關係、統合の理由の如きは、これを記述の順序によりて、隱約の間に暗示し、讀者の推考に委したる箇所少しとせず。著者は、讀者の眼光の、此邊に徹底せんことを望むや、切なり。

統合主義の採用に於ける、著者の用意の一斑を示さば、左の如し。

部分の統合。地文は地文、人文は人文、地方誌は地方誌として、原因結果の關係を明にし、各其の統合を圖りたり。

全體の統合。地人の關係を説きて、現世界の狀勢を明白にし、以て全體の統合を圖りたり。而して書物と云ふ方面より見るも、帝國地理は、

外國地理と統合し、此の兩者は、地文學及び地圖と統合し、少しも扞格することなきは、勿論なり。

他教科との統合。現今教授の弊は、分科に偏し、各學科個々別々に、其の系統的完全を求むるに急にして、全教科の統一を缺き、各教科個々分立の有様を呈するにあり。著者は、深く此の點に留意し、修身、數學、物理、化學、博物、圖書等、地理科と、直接、間接の關係あるものに對しては、特に其の進歩の程度を顧慮し、記述、説明の深淺、難易を斟酌したり。然れども、全教科の完全なる統合に至りては、著者一人の力の能くする所に非ず。著者豈敢て完全なる統合を成し得たりと斷言するものならんや。

二、比較地理學の應用。新出の觀念は、既得の觀念と結合して、始めて心意の有となることは、心理學の教ふる所なり。されば、教育に適用したる地理學の如きは、比較地理學の主義を採用するを以て、最も大切な

りとす。故に著者は、天然の地形を説明するに當りても、統計的數量を示すに當りても、常に基礎的智識と比較して、觀念の聯合を圖れり。彼の某々地所の景色を挿圖として掲げたるときは、傍らに其の地方の地圖を掲げ、又某國物産の産額を示したるときは、他の重要産國の産額を掲げ、以て兩者の比較をなしたるが如き、著者の用意の存する所を知るに足るべし。著者は、又専ら重きを世界に於ける日本の地位の説明に置きたり。故に比較の基礎が多く、我が島帝國にあるは、勿論なり。

三、最近の國勢を知るに足るべき排列。最近の材料によりて、最近の國勢を示すことは、著者の從來採り來りたる方針なり。著者は、此の點に於て、今や更に一層多大の注意を拂ひたり。我が帝國の保護國となりたる韓國を、帝國地理の末尾に添附したるが如き、蓋し其の一例なり。

四、外國地理の終りに、人文地理の一篇を特設せしこと。人文地理學

に於ける著者の造詣は、日尙淺く、尙専ら研究中に屬せり。然れども、日本帝國政治地理の第一卷及び第二卷は、本年末を以て上梓の機に達し、著者の人文地理學に於ける抱負は、これによりて、其の一端を發表し、廣く識者の批評を仰がんとす。斯くの如き著者の研究は、著者をして、從來の所謂人文地理なるもの、革新を絶叫せしめざるを得ざるに至れり。特に坊間普通の地理教科書に於ては、多く外國地理の終りに於て、人文地理の通説を附記すと雖も、單に形式に止り、内容備はらず、具眼の士をして、常に九俎一篋を缺くの憾を遺さしめたり。著者は、乃ち斬新なる材料を採りて、特異なる排列を行ひ、以て人文地理上一新機軸を出さんことを期せり。

### 丙 地理教科書の訂正

本書將來の訂正に就いては、著者は適當なる時機に於て、大々の訂正を加ふるを怠らざるべし。而して、教科書の訂正改良に關する著者の意見は、備考第一篇及び第三篇の緒言に盡くせるを以て、左に再びこれを掲ぐ。讀者幸に著者微意の在る所を察し、其の重複を尤むる勿れ。

山上地理教科書備考第一篇の緒言

地理教科書編纂の趣旨を示し、且つ明治三十六年大に訂正を加へし理由を明にす。

中等教育に於ける地理科の必要は、識者の已に認むる所、而して其の教授の目的と方法とは、著者の爰に論ずるを欲せざる所なり。蓋し、教育の理論に基き、教授の實際に訴へ、博く説き、洽く示して、必要なる智識を與へ、深く論じ、切に究めて、健全なる心力を養ふは、固より著者の教授當局者に遠く及ばざる所なり。旁搜遠紹、役々として、圖書の裡に退隱

し、勞心盡力、汲々として、著作の業に埋没し、萬様の材料を融化して、一種の教程を編成する所以に至ては、自ら信ずるに、稍一日の長あり。思ふに著者半生の境遇、僅かに此の一日の長所に存するは、假りに其の本領に非ずとするも、著作上の責任は、豈這般の好辭柄によりて、秋毫も假借せらるべきものならんや。著者才鈍く、識狭く、敢て獨創一家の言を立てて、世道に補ふ能はず、適杜撰平凡の書を公にして、屢衆人を誤る。而かも、十年一日の如く、自己著作の改良に孜々たるもの、誠にこれに外ならず。而して其の一己の勞を惜むの徒に非るは、當局の諸氏固より夙にこれを諒せり。

大日本圖書株式會社は、全力を盡くして、余が志を助け、遂に能く明治三十五年一月を以て、最近地理學教科書を公にするを得しめたり。世間の讚評、當時稍これを博せしも、内容の陥缺、爾來深くこれを愧づ。且

つ正鶴に中れる批評と、實際に適せる勸告とは著者をして、益責任の在る所に従ひ、自から信ずる所に基き、大々の訂正改竄を舊著の上に加へ、以て高等普通教育の用に供すべき、地理教科書の系統を編成せしむるに至れり。〔以下略す〕

山上地理教科書備考第三篇の緒言

（明治三十八年に訂正を加へざりし理由を明にす）  
大日本圖書株式會社は、余の指圖に基き、年毎に訂正せる余が著作の出版を勵行し、以て最近地理の名を空しくせざらんことを力めたりき。然るに、師範學校、中學校、高等女學校、地理科教授當局諸氏の多數は、余が著作の訂正を、年と共に新にするを以て、教授の實際に便ならずとし、屢余に勸告するに、其の訂正の實行を頻繁にするなからんことを以てしたり。願ふに、余の不敏を以てして、自己著作の改良に孜々たるもの、蓋

し、教授の實際に向て、一層の効果を致さんとする微意に外ならず。而して、當局諸氏の好意を以て云々する所は、専ら重きを活用の餘地に置くものあるに似たり。余固より教授の實際に信頼するが故に、如上の忠告は、これを歡迎するに汲々たるのみならず、大同を措き、小異を競ひ、學生の怪訝を來たし、以て教授の進行を沮害し、當局の不便を顧みざるが如きは、蓋し余の本意とする所に非ず。且つ帝國々運の進歩は、光榮ある時局の發展と相待て、世界の形勢と、東洋の地理とに、一新紀元を作るに至り、其の影響の及ぶ所、將に測るべからざるものあらんとす。今直ちに姑息の訂正を施し、苟且の改補を行ふとも、教授の實際に於て、大に裨益する所あるを見ず。故に、余は、出版者に通知するに、暫らく訂正の期を延ばすべきを以てしたり。若し夫れ必要なる事項の追補と、訂正とに至ては、本書の編述によりて、其の効果を致さんとす。當局諸氏

能く余の意を諒し、時局の進行に應じ、必要なる訂正を加へ、以て教授の實際に處するに怠らざるは、余の確信する所なり。

### 三 舊著最近地理教科書の絶版

名	稱	絶	版	期	限
最近中學地理教科書	日本之部	上	明治三十九年四月	明治三十九年四月	明治三十九年四月
	外國之部	下	明治四十一年四月	明治四十一年四月	
					地文之部

最近女子地理教科書	日本之部	上	明治三十九年四月	明治三十九年四月	明治三十九年四月
	地文之部		明治三十九年四月	明治三十九年四月	
					中學教科用地圖
外國之部	中	明治四十年四月	明治四十年四月		

女子教科用地圖	
日本之部	明治三十九年四月
外國之部	明治三十九年四月
上	明治四十年四月
下	

著者は、明治三十九年二月末日までに、當局者より、出版者へ向け、特別の通告ありしものを除くの外、一切の舊著を、以上の期限に於て、絶版すべきことを、出版者に命じたり。

#### 四 新著最近統合地理の系統

名稱	最近統合外國地理						最近統合帝國地理		
	高等女學校用		中學校用		師範學校用		高等女學校用	中學校用	師範學校用
目的	下	上	下	中	上	下	上	下	上
冊數	—	—	—	—	—	—	—	—	—
頁數	一五八	一三八	一六二	一一六	一三三	一八〇	二二二	一六六	一七七
插圖	八〇	六九	八四	六〇	六六	七七	七〇	一〇九	一一三

地圖之部			名稱	目的	冊數	圖版數	
最近	統合	地文學					
		師範學校用			一	一六四	一一七
		中學校用			一	一五四	一一七
		高等女學校用			一	一一八	八二
最近	統合	帝國地圖	師範學校用		一		一一二
最近	統合	外國地圖	師範學校用		一		二〇
最近	統合	地文圖	師範學校用		一		一四

### 五 教授資料

参考の材料を列記し、編述の淵源を指示し、加ふるに、教科書中、魯魚の正誤と、出版後異動の事實とを併記し、以て教授資料の一端に供す。但し、備考第一篇第二篇第三篇に、已に掲げしものは、概ね再び録せず。讀者幸に彼此對照するの勞を吝む勿れ。

#### 甲 帝國地理之部

一、樺太南部の面積 (師範第六頁、第一六〇頁、中學第六頁、第一三三頁)。

在來刊行せられたる諸種の樺太地圖は、何れも精密なるものには非ず。従て、教科書に載せたる面積は、固より概數なり。其の後、求積器(プラニメートル)を用ひて、測りたる結果、右と著く數を異にし、樺太全島の



面積約四、五二六方里中、樺太南部は、約二、〇五七方里、同北部は、約二、四六九方里にして、即ち約五と四・二との比なり。又樺太全島に對する南部面積の比は、一〇と四五との如し。境界劃定委員の手によりて、真正なる境界決定せられ、更に精密なる測地事業、終了の後、精密なる面積を得るまで、右の數は、大體に於て甚しき差異を見ることなかるべくと信ず。又前記の圖にて測りしものによれば、海岸線の長さは、樺太全島約五五九里、内北部約二二一里、南部約三三八里なり。從て關東州租借地と、韓保護國とを除き、日本帝國の全面積は、二九、一一九方里、海岸線の全長七、七七一里となるべし。

## 二、南日本の脊梁山脈の名稱

(師範第八頁、中學第六頁)

富士火山脈より南西、即ち所謂南日本の脊梁山脈は、始めて原田博士によりて、支那山系の名を下され、次て小藤博士の日本崑崙山系となり、

近ごろ小藤博士は、又日韓支那東部の地體についての新研究を公にせられしが、理學博士石井八萬次郎氏は、東アジャと、日本群島に於ける地帯の排列を論じ、斬新なる意見を發表せられたり。日本の地文學に志すものは、地質學雜誌第十三卷第百五十五號所載の論説を見るべし。

## 三、盆地

(師範第一一頁、中學第一〇頁、女學第八頁)

盆地の説明に就いては、統合地文學第二篇第一章を參看すべし。

## 四、我が國の最低氣溫

(師範第一二頁、中學第一頁、女學第九頁)

我が國の最低氣溫の極數は、明治三十五年一月二十五日午前二時、上川に於て、氷點下四十一度に達せしを以て、最大となししが、明治三十九年一月二十一日、樺太南部ウラジミロフカに於て、最低氣溫氷點下四十二度に降りたりき。

## 五、重要鑛產物產額

(師範第一九頁以下、中學第一七頁、女學第一五頁)

(イ) 日本重要鑛産物産額累年比較、其の一。

年	金	銀	銅	鉛	鐵
明治十年	九三・四	二・九	六・五	〇・四	二・一
明治十五年	七二・四	四・六	九・三	〇・三	三・二
明治二十年	一三八・八	九・四	一八・四	〇・六	四・〇
明治二十五年	一八六・八	一六・〇	三四・五	一・五	五・〇
明治三十年	二七六・四	一四・四	三三・九	一・二	七・四
明治三十五年	七九三・五	一五・三	四八・三	二・七	八・五
明治三十七年	七三六・一	一六・三	五三・五	三・〇	一〇・一

(ロ) 日本重要鑛産物産額累年比較、其の二。

年	安質母尼	滿	俺	石	炭	石	油	硫	黄
明治十年	〇・〇三	〇・〇二	〇・四	〇・二	〇・二	二・二			

年	明	明	明	明	明	明	明	明	明
明治十五年	四・二	〇・〇二	〇・九	〇・〇二	五・六				
明治二十年	二・五	〇・五	一・七	〇・三	一・七九				
明治二十五年	二・三	八・三	三・一	〇・七	三四・一				
明治三十年	一・九	二五・七	五・二	二・三	二二・六				
明治三十五年	一・〇	一八・一	九・七	八・七	三〇・四				
明治三十七年	〇・七	七・二	一〇・七	一〇・七	四二・六				

以上の表によりて見れば、重要鑛産物の産額は、大體に於て、年を逐ひ増加し、唯明治三十七年は、多少時局の影響を蒙れるものゝ如し。各種に就て云はば、滿俺及び安質母尼のみ、近時、稍産額減少の傾向あれども、石油の産額、近年長足の進歩をなししは、著き事實なり。

(ハ) 全國鑛産高。

明治三十七年に於ては、五千八百餘萬圓にして、此の中、石炭約二千九

百萬圓、銅約一千八百萬圓に達せり。

(ニ) 日本輸出入最重要鑛産物價額比較單位萬圓。

輸 入	輸 出		輸 入	輸 出
	石 鐵	石 炭		
油	一四七・二	四八五・四	三三二・八	一六三・三
	五九九・七	五七七・四	七六六・七	二六・七
	八九〇・二	一〇二六・一	一四九三・七	二七・一
	一一六四・二	一一七二・〇	一八二〇・一	九五・〇
		一四八二・八		二六・八

(ホ) 重要鑛産物世界産額。

金。明治三十七年、我が國は、世界産額の約百八十分の一を出し、諸國

中、第十三位に居る。最も多きは、大洋洲にして、アメリカ合衆國及びフランスパール、これに次ぐ。尙左表を見よ。

國 名	明治三十七年度單位一千キログラム
大洋洲	一三一・〇
アメリカ合衆國	一一一・四
フランスパール	一一七・五
ロシヤ	三七・七
カナダ	二四・六
日本	二・七
世界總産額	五一八・四

銀。明治三十七年、我が國は、世界産額の約八十分の一を出し、諸國中、第九位に居る。最も多きは、アメリカ合衆國にして、メキシコこれに次

く。尙左表を見よ。

國名	明治三十七年産額(單位一萬キログラム)
アメリカ合衆國	一七九・七
メキシコ	一三九・一
大洋洲	四五・二
ドイツ	三八・九
ポリビヤ	一八・九
ペルト	一四・五
日本	六・一
世界總産額	四九六・一

銅。明治三十七年、我が國は、世界産額の約二十一分の一を出し、諸國中、第五位に居る。最も多きは、アメリカ合衆國にして、メキシコ及びイ

ペリヤ、これに次ぐ。尙左表を見よ。

國名	明治三十七年産額(單位一萬佛噸)
アメリカ合衆國	三七・八
メキシコ	五・一
イペリヤ	四・七
大洋洲	三・四
日本	三・二
世界總産額	六六・七

鉛。明治三十七年、我が國は、世界産額の約四百九十分の一を出し、諸國中、第十六位(?)に居る。最も多きは、アメリカ合衆國にして、イスパニヤ・大洋洲及びドイツこれに次ぐ。尙左表を見よ。

國名 明治三十七年産額(單位一萬噸)

アメリカ合衆國	三〇・二
イスパニヤ	一八・三
大洋洲	一五・〇
ドイツ	一三・七
日本	〇・一
世界總産額	八九・三

鐵。明治三十七年、我が國の製鐵額中、外國礦石を用ひたるものを除けば、銑に於て、世界産額の約一千三百五十四分の一を出し、鋼に於て、世界産額の約二萬三千三百分の一を出せり。最も多きは、アメリカ合衆國にして、ドイツ及びイギリス、これに次ぐ。尙左表を見よ。左表に示す外、我が國の製鐵所は、清國の礦石を用ひて、約四萬噸内外の銑及び鋼を産出せりと云ふ。

明治三十七年産額單位一萬佛噸

國名	銑	鋼
アメリカ合衆國	一六七六・〇	一三七四・六
ドイツ	一〇一〇・三	八九三・〇
イギリス	八六九・九	五一〇・七
フランス	二九九・九	二〇八・〇
ロシア	二九七・八	二八一・一
オーストリアハンガリー	一三六・九	一一九・五
ベルギー	一三〇・七	一〇六・九
スエーデン	五二・八	三三・三
イスパニヤ	三七・五	一九・六
カナダ	二七・四	一五・一

イタリヤ	二・七	一一・三
日本	三・四	〇・一五
其の他諸國	六三・三	四一・五
世界總産額	四、六〇九・二	三、六一五・一

安質母尼。我が國は、世界産額の約三十五分の一を出し、諸國中、第五位(?)に居る。最も多きは、フランスにして、イタリヤこれに次ぐ。尙左表を見よ。

國名 明治三十七年産額單位一千佛噸

フランス(アルゼリヤを含む) 一二・三

イタリヤ 六・九

日本 〇・五八

世界總産額 二一・七

滿●俺。我が國は、世界産額の約二百四十六分の一を出し、諸國中、第九位(?)に居る。最も多きは、アメリカ合衆國にして、ギリシヤ及びブラジルこれに次ぐ。尙左表を見よ。

國名 明治三十七年産額單位一萬佛噸

アメリカ合衆國 四六・一

ギリシヤ 二三・九

ブラジル 二〇・八

印度 一四・〇

日本 〇・四

世界總産額 一一六・三

石●炭。我が國は、世界産額の約八十二分の一を出し、諸國中、第八位に居る。最も多きは、アメリカ合衆國にして、イギリス及びドイツ、これに

次ぐ。尙左表を見よ。

國名	明治三十七年産額(單位百萬佛噸)
アメリカ合衆國	三一八二
イギリス	二三六・一
ドイツ	一六九・四
オーストリアハンガリー	四〇・六
フランス	三四・五
ベルギー	二三・三
ロシア	一八・六
日本	一〇・七

世界總産額 八八五・二

石油。我が國は、世界産額の約一百六十三分の一を出す。最も多き

は、ロシアにして、アメリカ合衆國これに次ぐ。尙左表を見よ。

國名	明治三十七年産額(單位一萬佛噸)
ロシア	一三二四・六
アメリカ合衆國	一〇〇五・九
日本	一五・〇

世界總産額 二四四五・〇

硫黄。我が國は、世界産額の約二十九分の一を産し、諸國中、第三位に居る。最も多きは、イタリアなり。尙左表を見よ。

國名	明治三十七年産額(單位一萬佛噸)
イタリア	五一・一
アメリカ合衆國	一九・三
日本	二・五

世界總産額

七三六

(へ)概説。以上述べし所を概説せば、我が國の主なる鑛産は、銅及び石炭にして、これ等二種の鑛物は、東洋に於ては第一位に居り、盛に海外に輸出せらる。然れども他の鑛産と同じく、世界の總産額に對しては、非常に僅少なること、前記諸表を熟讀して、これを知るべし。

一キログラムは、二百六十六匁六六七弱に等しく、一佛噸は、一千キログラムに等し。

因に云ふ、一哩は、約十四町四十五間、一哩は十六町九分七厘五毛に等し。

正誤 師範學校用第一六頁第四行、「瀬戸内海」を「日本内海」に改め、女學校用第六頁第四行、「アシヤ州」を「アシヤ洲」に改む

六、東京府に關する事項 (師範學校第二二頁以下、中學第一七頁以下)。

東京市の記事、各國公使館の上に、大使館の三字を加へ、東洋學藝の中心として、清韓シヤム印度等、東亞諸國より、留學生多きことを附す(清國留學生の數は、目下約一萬に達す)。中學校用第十二圖(東京市の上欄に、1宮城、2近衛師團司令部、3日本銀行、4九段靖國神社、5日比谷公園、6帝國議會議事堂、7第一師團司令部、8芝増上寺、9高輪泉岳寺、10東京帝國大學、11上野公園、12淺草淺草寺、13龜井戸天滿宮、14深川公園の説明)に入る。師範學校用第二十一圖、高等女學校用第十九圖(電車、日比谷公園有樂門附近は雨上りの早朝、人出極めて少き時を見計ひ、寫眞に取り、これを木版に附せしものなれば、極めて寂寥なれども、實際は、非常に雜沓すること多しと知るべし。小笠原島の住民中には、デンマークイギリス、アメリカ合衆國等の國人の子孫少からず。

七、神奈川縣に關する事項 (師範第二七頁以下、中學第二二頁以下)。



休火山火口丘噴氣孔火口原等の説明に就いては、統合地文學第二篇第二章を見よ。横濱港は、防波堤成り、港内の浚渫歩を進められたれども、帝國の一等港としては、甚だ不充分なり。帝國の他の大港と同じく、繁船壁の一つだになきは、其の適例なり。今や、大に本港築港の完備を圖りつゝあれば、數年ならずして、面目を改むるに至るべし。明治三十八年の全國輸出入額(臺灣を除き)八億一千萬圓の内、横濱三億三千四百萬圓にして、其の内、輸出額は、全國三億一千八百萬圓に對し、横濱は、一億四千萬圓を占め、全國第一なり。又生絲羽二重は、殆ど全く本港より輸出し、茶も主として本港より輸出することに就いては、左表を見よ(明治三十八年、臺灣を除く、單位一萬圓)。

全國	横濱港
生絲	七一一八四
茶	七一一八四

羽二重	二八〇六	二七九六
茶	一〇五八	六六九

横須賀は、不日市制施行地となるべしと云ふ。女學校用、第二二頁第五行、横須賀の人口〇〇〇〇〇に改む。要塞地帯とは、國防の爲め建設したる諸般の防禦營造物の周圍の區域にして、何人と雖も、要塞司令官の許可を得るに非れば、要塞地帯内水陸の形狀を、測量、撮影、模寫、録取することを得ず。これを犯したるものは、十一日以上一年以下の重禁錮、又は二圓以上五十圓以下の罰金に處せらるゝものなり。其の他、嚴重なる規定あれば、要塞地帯及び附近に居住し、又は此の地方に旅行するものは、よく心得置くべきことなり。詳細は、要塞地帯法を見よ。教育家にして、此の法を知らず、此の禁を犯さんとせし例、一二にして止まらざるは、慨嘆すべし。

### 八、埼玉縣に關する事項

(師範第三〇頁以下、中學第二二頁以下)

明治三十八年、全國麥產額約一八七一萬石にして、平年に比すれば、約九五萬石少し。而して茨城は、一一四萬石、埼玉は、一〇三萬石にして、共に全國の首位に居ることは、依然たり。明治三十七年、全國織物產額約一三〇〇〇萬圓の内、埼玉縣は、六四五萬圓に達して、全國中、第八位を占め、内、綿織物約四〇〇萬圓、白木綿二子其他、絹木綿、織色木綿、各百萬圓以上なり。中學校用及び女學校用、川越の人口、左側に記を加ふ。女學校用第十六圖(麥の產額)中、左に全國、右の上に茨城、右の下に埼玉の各二字を加ふ。

### 九、千葉縣に關する事項

(師範第三二頁以下、中學第二二頁以下)

河跡湖の説明は、統合地文學第二篇第五章の内、湖沼の成因を見よ。水産物を、鹽漁獲物製造物の三つに大別せば、全國漁獲物、明治三十七

年產額、約四二六三萬圓に對し、千葉は、四三二萬圓(鱈一四二萬圓、鮒五二萬圓、鯉二〇萬圓)、長崎は、二四六萬圓、山口は、二三五萬圓、三重二一四萬圓なり。

河港。港は、其の地形的成因により、河港、島港、火口港、峽灣港、リヤス港、環礁港、二重灣港等に分つ。

### 一〇、茨城縣に關する事項

(師範第三四頁以下、中學第二二頁以下)

明治三十七年、全國葉煙草產額、一二八〇萬貫の中、栃木は、一六四萬貫、茨城は、一五七萬貫、鹿兒島は、一二七萬貫なり。大豆は、全國三七一萬石、茨城五三萬石、北海道三九萬石なり。女學校用第十八圖(大豆の產額)左に全國、右の上に北海道、右の下に茨城の文字を加ふ。

鹿島神宮の要石は、人造的のものなることは、實物を見れば、明瞭なり。ミルン氏地震學(舊版)には、玄武岩塊の露出せる様に、記載しありしと記

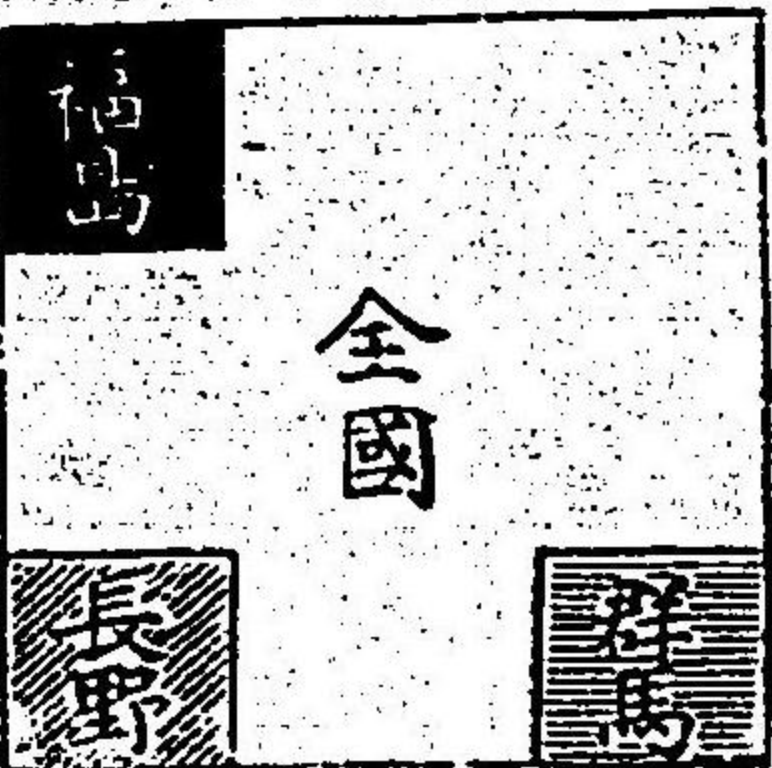
憶す。又此の要石を以て、堅硬なる地盤の一部となすもの、往々あれども、これ等の多くは、實地を見ざる架空の説なり。蓋し、鹿島に震災の輕きは、要石の存在が、地震影を生ずるによるに非ず。臺地なる鹿島は、第三紀層、第四紀古層より成り、其の縁には、柔軟なる第四紀新層を控ふ。故に鹿島以外に發せる地震は、鹿島地方の外部を圍める柔軟なる土地を通過し、常總地方に特有なる幾多の湖沼を渡るによりて、此の處に起震力の大部分を消費し、遂に鹿島臺に達する頃には、甚だ微弱となりて、其の比較的堅硬なる地盤を動かし能はざるに至るにあり。これ理學博士日下部四郎太氏が、地學雜誌第二百十號に掲げし論說の主要なり。

一、**栃木縣に關する事項**（師範第三六頁以下、中學第三三頁以下、女學第二六頁以下）  
 明治三十七年、全國大麻產額、約二七三萬貫の中、栃木は、四三萬貫、廣島は、三三萬貫、共に全國の首位を占む。師範學校用第三六頁第九行、那須

火山脈は、單に那須火山に改む。華嚴瀧は、冬期より翌年春に亘り、中禪寺湖の減水により、其の壯觀を呈せず。足利の左に、人口<sup>○</sup>を加ふ。

一、**群馬縣に關する事項**

（師範第三八頁以下、中學第三三頁以下、女學第二九頁以下）



桑畑段別比較を見るに、明治三十六年には、全國第約三十一萬九千町に對し、福島は、二萬九千、長野は、一二萬八千、群馬は、二萬六千町にして、其の割合、上圖圖に示すが如し（第一圖）。明治三十七年には、全國約三十二萬五千町に對し、福島は、三萬〇千、長野は、三萬一千、群馬は、二萬七千町なり。火山の裾合谷とは、二つ或は二つ以上の火山、相逼りて、其の間谷の形をなせるものにして、富士山、愛鷹山と、箱根山との裾合谷は、東海道鐵道の一部（御殿場、沼津間及び附近通過せり。裾野とは、火山山腹の平地に接する所、傾斜極めて緩なる部分を云ふ。

富士山には、最もよく發達せり。妙義山の奇景は、集塊岩と稱する一種の火山質岩石の浸蝕によりしものにして、大分縣の耶馬溪、香川縣の寒霞溪、島根縣の立久惠、長野縣の戸隠山等、皆これと類を同ふす。

明治三十七年、絹織物産額、全國約五七〇五萬圓の内、福井は、二二三五、京都は、八五三、群馬は、五四一、福井は、四五一萬圓なり。石川は僅に五四萬圓を出ししのみ。

一三、奥羽の總記に關する事項 (師範第四〇頁以下、中學第三三頁以下、女學第三一頁以下) 縦谷、横谷の區別に就いては、統合地文學第二篇第一章を見よ。河のへ字形に屈曲するは、これ河は、先づ中央分水の高地に並行して流れ、次に脈は引けども切れくゞに聳立せる火山の間を、横に流れて、日本海に注ぐが爲めなり。必ずしもへ字形とは云はず、フ字形、>字形等、色々あれども、如上の屈曲を示す爲めに、單にへ字形としたり。中學校用第

三四頁第七行及び第八行「鑛業」を「鑛産」に改む。人口の密度は、日本帝國第二十四統計年鑑の示す所の大區劃に従へば、左の如し(明治卅六年末)。

地方	人口	一方里ニ付キ人口
本州中區	一八、一五八、二〇一	二、九六六
本州北區	六、八一五、〇五二	一、三四四
本州西區	一〇、四一〇、四三九	二、九九八
四國區	三、〇〇九、七〇七	二、五四九
九州區	六、七七三、〇四〇	二、五三六
沖繩	四七一、五三七	三、〇〇五
北海道	九九七、〇一六	一、六四
計	四六、六三四、九九二	一、八八三

一四、福島縣に關する事項 (師範第四三頁以下、中學第三三頁以下、女學第三一頁以下)。

堰塞湖に就いては、統合地文學第二篇第五章の内、湖沼の成因を見よ。桑畑の面積は、長野と共に、全國の首位に居ること、群馬縣の部に、これを述べたり。女學校用第三三頁第一一行、若松の人口を加ふ。中學校用第三六頁第二行猪苗代の振假名をイナワシロに改む。

一五、宮城縣に關する事項 (師範第四、五頁以下、中學第三、四頁以下)

間歇溫泉に就いては、統合地文學第二篇第二章を見よ。鬼首なる吹上溫泉は、近時其の大孔よりの噴出止み、従前の奇觀なし。もと大小二つの孔ありて、一晝夜の間、約七回相交代して、噴出せしものなりしが、今は小孔のみ、約二時間毎に噴出せり。

一六、岩手縣に關する事項 (師範第四、六頁以下、中學第三、五頁以下)

明治三十七年末日調馬頭數は、全國の一三九〇千頭の内、鹿兒島は一〇三、熊本は九七、岩手は八五千頭なり。概ね、前年より減少せり。これ

日露戰役の爲め、馬匹を徵發せられしによる。

人口の密度最も大なるは、一方里に付き人口、東京府の二一、九七二人、大阪府の一四、五一七人にして、各、東京市、大阪市の如き、大都會を含めるが故なり。神奈川縣の六、二九七人、香川縣の六、〇八一一人、愛知縣の五、三一八人、これに次ぐ。人口の密度最も小なるは、北海道の一、六四人を除けば、岩手縣の八一八人にして、宮崎縣の一、〇〇八人、秋田縣の一、〇八六人、これに次ぐ(明治三十六年末日)。北上川及び馬淵川が、南北に背馳して、一條の交通路を開けるは、中國に於ける、朝來川、市川のそれに似たり。共に鐵道を始めとし、地方交通の主要路となれることに、注意すべし。

明治三十七年、全國鐵の産額、左の如し。

銑鐵 八一〇、二二〇九斤(内、釜石七、一〇六、四五四斤)

同(砂鑛の) 九七二、六九二貫産地、鳥取、島根、岡山、廣島、岩手

鋼鐵 三七五、一二一斤(產地、鳥取、島根、廣島)

鍊鐵 一六八、三八八貫(產地、島根、廣島)

同(製品) 一三九、五〇四 (產地、鳥取、廣島)

銅鐵(製品) 四一三、五八六 (產地、鳥取、島根)

此の外、福岡縣に於ける農商務省所管製鐵所の分、鋼鐵の製出高、九、九六七、七七九貫三七、三七九佛噸あり。其の製出の原料たる銑鐵製出に要せし鑛石は、主として外國産なり。

女學校用第三五頁第一一行、及びを及びに改む。

一七、青森縣に關する事項 (師範第四頁以下、中學第三頁以下、)

羅漢松は、羅漢柏の誤り。中學校用第四〇頁第九行、弘前市の人口をを加へ、女學校用第三七頁第六行、同市の人口をに改む。青森は、佐賀縣住之江、武雄川の河口に近しと共、明治三十九年四月一日より、開

港場となれり(明治三十九年三月勅令)。住之江港に於ては、貨物の輸出に限りこれを爲すことを得。青森及び室蘭は、穀物及び種子、食物、關稅定率法輸入稅表第三類に掲ぐるもの等の物品に限り、輸入をなすことを得ることとなれり(明治三十九年六月勅令)。

一八、秋田縣に關する事項 (師範第四頁以下、中學第四頁以下、)

男鹿半島の最高山は、寒風山(三七〇米)に非ず、眞山(七二〇米)なり。

明治三十七年、鑛物産額(販賣價額)銀に就いては、全國の二二三萬圓に對し、秋田は、約九四萬圓なり。銅に就いては、全國の一七六六萬圓に對し、秋田は、五三〇、栃木は、三二九、愛媛は、三四八萬圓なり。秋田の銀製出高、約七千貫の内、小坂は、約三千貫、院内は、約二千四百貫なり。銅の製出高は、小坂の約六百萬斤、足尾の約一千一百萬斤、別子の約八百萬斤、例によりて、日本の三大銅山なり。小坂は、最近に於て、日本第一の銅山なり。

### 一九、山形縣に關する事項

(師範第五一頁以下、中學第四〇頁以下、女學第三九頁以下)

薄荷油を始めとし、薄荷の製品の産額は、神奈川縣を以て第一とし、これ各地の材料を集めて製するによる、岡山、廣島これに次ぎ、北海道(特に北見)山形、又これに次ぐ。西海岸に於ける砂丘の發達は、最も著しく、高さ往々百尺を超ゆるものあり。而して、西側即ち風を受くる日本海に向へる方には、傾斜極めて緩なれども、東側即ちこれに反する陸地の方には、急にして、往々三十度に達する等、砂丘の特色たる諸現象、よく發達せり。統合地文學第三篇第四章に載する所は、これ等砂丘の一部分を示したるものなり。師範學校用第五二頁第一二行、及び女學校用第四〇頁第五行「最上河口」を「最上川河口」に改め、中學校用第四〇頁第九行「中心たりき」を「中心なりに改む」。

### 二〇、本州中部の總記に關する事項

(師範第五三頁以下)

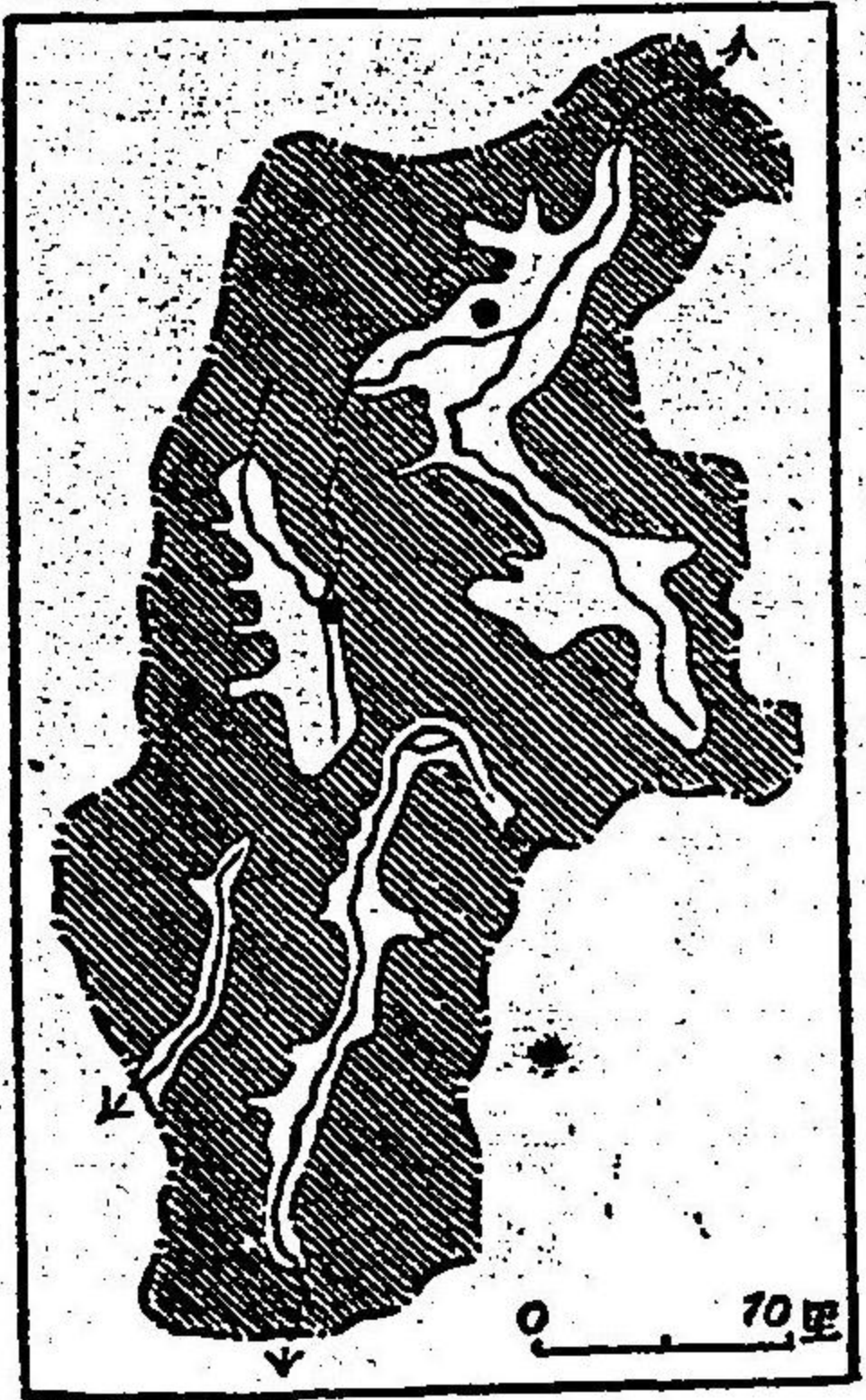
對曲。造山力の不等なるによりて成れる二山脈の接交する地に於ては、凹圓面の反對に位する彎形を成す。これを稱して、山脈の對曲と云ふ。關東及び其の附近は、日本地質構造上、二大山系の對曲地方にして、飛驒及び木曾地方と共に、日本地帶中、陸の最も廣き所、山の最も高さ所を占領す(原田博士、日本地質構造論)。

### 二一、長野縣に關する事項

(師範第五五頁以下、中學第四二頁以下)

明治三十七年、蠶絲類産額、全國

- 第一 一〇七四七萬圓にして、内、長野は二四九一、群馬は一〇七〇、山梨は六四九、福島は六〇五、愛知は六〇一、埼玉は五一五、山形は四〇八萬圓なり。



山上地理教科書備考 第四篇

山河の地形により、地方の區劃あることは、長野縣に於て、最も著し。上圖は、其の概要を示す(第二圖)。諏訪湖水の氷結し、湖氷面に生ずる龜裂は、御渡と稱し、同地に鎮座せる諏訪明神の神爲となし、其の龜裂の方向如何により、天下の豊凶禍福を示し、毎年、時の將軍に特使を馳せて、これを披露せる慣例ありき。其の學術的説明につき、これを以て、水の氷結する際の膨脹に由るものなりとなしし論者もありしが、近時東京地學協會々員、小林房太郎氏は、其の調査の結果を、地學雜誌第二百〇八號の紙上に發表し、諏訪湖の御渡を以て、氷層收縮の結果によるものとなせり。單に氷層の膨脹を以て御渡の原因となすの不可なるは、小林氏の記述、これを盡くせり。而して氷層收縮が、御渡の現象の一原因たるべきことも、氏の記述に於て、これを認め得べし。然れども、其の性質の甚だ複雑なる御渡の如きもの、完全なる説明に至りては、他の諸原因

(例へば氷層下の水の流出して、空洞を生ぜんとすること等に就いて、尙一層の研究を要すべし。諏訪湖の附近は、地學上の現象に富み、特に上諏訪町には、冬季木々の梢は、悉く羽毛狀或は樹枝狀の氷品附着し、満目吉野櫻の満開せるかを疑はしむ。これを木ノ花と通稱す。これ過冷却の霧の凝結によりて、生成せしものなり。其の霧の本源たる、水蒸氣の多きことに就いては、諏訪の地、温泉多く、市中を貫流し、蒸氣の發散甚だ多きことも、多少與て力あるべし。然れども、學者最近の實驗によれば、過冷却現象の生成は、通常想像せらるゝよりも、一層頻繁に發現することは、慥かなり。而して過冷却の生因には、種々あり。又前記、木ノ花の現象は、伊那地方及び越前大野郡の山地にもあることに注意すべし。要するに、木の花の本源たる水蒸氣を、主として、温泉よりの蒸發に歸するには、尙一層事實上の研究を経ざるべからず。



福島(福島縣にもあり)福山(備後及び渡島)横須賀(相模)遠江及び尾張、通じて、東海道に三ヶ所あり等、同名の地あることに、注意すべし。

### 二二一、新潟縣に關する事項

(師範第五八頁以下、中學第四四頁以下、七頁以下、女學第四四頁以下)

長岡は、市制施行地となれり。師範學校用第五八頁、卓越風は、其の地方に、主として吹く風なり。荒川は、新潟縣の南北兩部に、各一つあることに注意すべし。

明治三十八年、全國米實收高は、約三七八四萬石、内、兵庫は二〇二、愛知は一七九、福岡は一六八、新潟は一六五萬石なり。これを、三十七年の如き豊年に比すれば、一三五九萬石、平年に比すれば、六五五萬石の減收に歸し、就中東北地方は、未曾有の凶歉を來せり。

明治三十七年、金産額は、全國(臺灣を除く)の約三五七萬圓に對し、鹿兒島縣は、約一四四萬圓を以て、第一に居り、新潟縣は、これに次ぎ、約五四萬

圓なり。而して主要金山は、鹿兒島縣伊佐郡牛尾、第一にして、約百十六貫を産し、佐渡の相川は、第二にして、八十四貫、鹿兒島縣始良、薩摩二郡に亘れる山ヶ野は、第三にして、約七十五貫、但馬の生野は、第四にして、約五十五貫を産す。

### 二二三、山梨縣に關する事項

(師範第六〇頁以下、中學第五〇頁以下、女學第四六頁以下)

官設鐵道中央東線の内、甲府より八王子に至る間は、全線路約五十三哩の内、隧道の數四十二、隧道の長さ、通じて約一二哩、其の中最も大なるは、笹子峠を通ずる隧道にして、長さ約一萬五千三百餘尺、我が國に於て、第一の最長隧道なり。これに次ぐを、小佛峠(武藏)相模間にして、山梨縣區域外なりとし、長さ約八千四百尺、我が國に於て第三の最長隧道なり。然れども、これ等を以て、スウイスの國境を通ずるシンブロン(一九七三〇米)又はサンゴタルド(一四九九〇米)モンセニス(一二二三三米)の隧道

等に比せば、果して如何。

### 二四、静岡縣に關する事項

(師範第六三頁以下、中學第五頁以下)

中學校用、静岡の人口を、註に改む。富士の八峯とは、劍ヶ峯、釋迦嶽、久須志嶽、伊豆嶽、成就嶽、駒ヶ嶽、淺間嶽及び三島嶽を稱す。「セノウミ」は、駿河灣の深海中に突出せる淺海底(恰も海底の山背)にして、其の最も淺き所は、僅に十八尋に過ぎず。イギリスの海圖には、此の部に、Cornel Seaの名稱あり。石花海は、蓋し此の譯名なるべく、且つ附するに、通稱「セノウミ」の假名を、左側に記し、石花海とせり。斯の如き海底の地相は、日本近海の地文學上、特に興味ある問題となるべし。熱海間、欽泉の噴出する理に就いては、近時、理學博士本多光太郎氏の研究に係る新説あり。統合地文學第二篇第二章に掲ぐるものは、其の概要なり、就いて見るべし。明治三十七年、茶の産額は(臺灣を除く)約七百四萬貫、價額一千〇十八

萬圓にして、此の内、玉露七萬貫、價額二十八萬圓、煎茶は、四百八十六萬貫、價額九百〇三萬圓、番茶二百十萬貫、價額八十五萬圓なり。而して静岡縣は、三百七十八萬圓、約全國の三分の一以上を占め、内、煎茶百九十五萬貫、三百七十四萬圓、京都府これに次ぎ、七十九萬圓、内、煎茶六十一萬圓、三重縣又これに次ぎ、約七十萬圓、内、煎茶六十七萬圓なり。

### 二五、愛知・岐阜二縣に關する事項

(師範第六五頁以下、中學第五三頁以下、女學第四九頁以下)

豊橋は、市制施行地となれり。女學校用、熱田の人口を、註を加ふ。明治三十七年、陶器産額、全國六七三四萬圓にして、愛知は、約二三・五、岐阜は、約八・六、佐賀は、約六・三、京都は、約六・二萬圓なり。中學校用、第五六頁第二行、楫妻を揖妻に改む。

### 二六、富山・石川・福井三縣に關する事項

(師範第六九頁以下、中學第五七頁以下)

女學第五。  
二頁以下。

女學校用第五三頁第一〇行、高岡の人口を加ふ。明治三十七年、漆液産額、全國の三拾萬圓に對し、栃木は、四萬四千圓、愛知は、三萬八千圓、石川は、三萬六千圓、茨城は、三萬一千圓なり。奈良は、僅に三千餘圓となり。明治三十七年、羽二重産額、全國の三四三三萬圓に對し、福井は、二〇八二、福島は、四四三、群馬は、二六〇、富山は、一六〇萬圓なり。而して、石川は、一萬餘圓となり、前年の産額の甚だ大なるに似ず。

### 二七、滋賀縣、京都、大阪、二府に關する事項

(師範第七四頁以下、中學第六

第一頁以下、女學第五七頁以下)

明治三十七年、麻織物産額、全國の二五九萬圓に對し、栃木は、五四、滋賀は、五一、北海道は、三四、福井は、三一萬圓にして、栃木の産額第一となり。京都市圖(師範は第六一圖、中學は第四四圖、女學は第四二圖)名を、京都市

及び附近に改め、圖中、淀川本流の位置は、淀川改修工事の結果、淀の南方を西流することに訂正す。京都市の記事中に、京都帝室博物館のあることを加ふ。大坂市の工業中に、造船を加ふ。師範學校用第八三頁第三行、市南の濱寺の公園を、市南に、濱寺の公園ありと改む。明治三十七年、綿絲産額、全國の三四五七萬貫に對し、大坂は、一二九四、兵庫は、四三二、岡山は、三一三萬貫なり。女學校用第六三頁第一〇行、其の他の三字を省く。

### 二八、奈良、三重、和歌山、三縣に關する事項

(師範第八三頁以下、中學第六

九頁以下、女學第六四頁以下)

宇治山田は、市制施行地となれり。師範學校用及び中學校用、津市の物産、絹子織に、振假名「モジオリ」を附す。中學校用及び女學校用、四日市の人口に、をを加へ、女學校用には、尙更らに、四日市の下に、市の一字を加

ふ。明治三十七年、漆器産額、全國の四四八萬圓に對し、京都は六〇、静岡は四九、和歌山は四七、石川、福島は三一萬圓にして、京都は第一となり、和歌山は大に減じたり。

### 二九、兵庫縣に關する事項

(師範第八九頁以下、中學第七四頁以下、女學第六九頁以下)

明治三十八年、輸出入額、全國(臺灣を除く)八億一千萬圓に對し、神戸港は三億一千三百萬圓、其の内、輸出八千四百萬圓、輸入二億二千九百萬圓にして、輸入に於ては、依然として、第一位を占む。明治三十八年の重要輸出品は、前年と同じく、綿織絲、マツチ花、蕪、銅、茶、樟腦、麥稈、真田陶磁器等にして、米、酒、紙、卷煙草、綿、メリヤス肌衣等、これに次ぎ、重要輸入品は、前年と同じき綿織、米、石油、肥料、大豆、毛布、機械等にして、麥粉、藥材、乾藍、錫、亞鉛、金巾、羅紗、縮緬、吳呂鐵、道機關車、靴底皮等、これに次ぐ。明治三十八年は、三十七年と同じく、概ね時局の影響を受くること、何れの開港に於ても、

大なりと知るべし。

明治三十七年、マツチ産額、全國の一七五萬圓に對し、兵庫は六九三、大阪は二八七、愛知は一三〇萬圓なり。マツチ産額圖(師範は第七〇圖、女學は第四九圖)の中、大阪と愛知とを入れ替へるを要す。明治三十六年度、酒類産額、三五〇萬石の中、兵庫は五二、福岡は一、九萬石なり。

明治三十六年度、醬油製造高、全國の一七六萬石に對し、第一は千葉の二四、第二は兵庫の一、二、第三は愛知の一、一萬石なり。

### 三〇、中國地方に關する事項

(師範第九二頁以下、中學第七七頁以下)

中國略圖(師範第七十一圖、中學第五十圖)中に、長門國大嶺、炭山に至る鐵道を加ふ。

明治三十七年、其産産額、全國の五五萬圓に對し、廣島は一四、福岡は一、一萬圓なり。輸向、莞、莖産額、全國の四〇九萬圓に對し、岡山は二八四、

廣島は、四三、福岡は、二四萬圓なり。明治三十七年、麥稈・眞田産額、全國の二八八萬圓に對し、岡山は、一六六、香川は、六二、愛知は、二八萬圓なり。經木・眞田産額、全國の一七三萬圓に對し、東京は、三九、埼玉は、二九、神奈川は、二六、岡山は、二三萬圓なり。又これに麥・稈・木・交・眞・田を加へ、通じて三種の總計、全國の四八一萬圓に對し、岡山は、二〇〇、香川は、六二、愛知は、四四、東京は、四二萬圓なり。

吳の記事中に、其の海軍工廠の造船及び製鋼事業は、規模極めて大なりを加ふ。

明治三十七年、牛頭數、全國の一・二〇萬頭に對し、廣島は、八萬九千、岡山は、八萬五千、鹿兒島は、七萬頭に對し、前年より、少しく減ぜり。明治三十七年、製鹽産額、全國の九九六萬圓に對し、香川は、一七六、山口は、一四一、兵庫は、一一〇、廣島は、八〇萬圓なり。

廣島縣三次の霧の海なる現象の説明に就いては、統合地文學第二篇第五章を見よ。

### 三一、四國に關する事項(師範第一〇四頁以下、中學第八、八頁以下、女學第八一頁以下)

リアスを、リヤスに改む。リヤス式の海岸に就いては、本書地文の部に譲り、爰には畧す、後文を見るべし。明治三十七年、製藍産額、全國の一八萬圓に對し、徳島は、一三二萬圓にして、他は、例により、皆少額なり。すべて前年より、著く減少せり。師範第一〇七頁、中學第九〇頁、鳴門海峽潮流の最大速度、一時間十里を、十哩に改む。

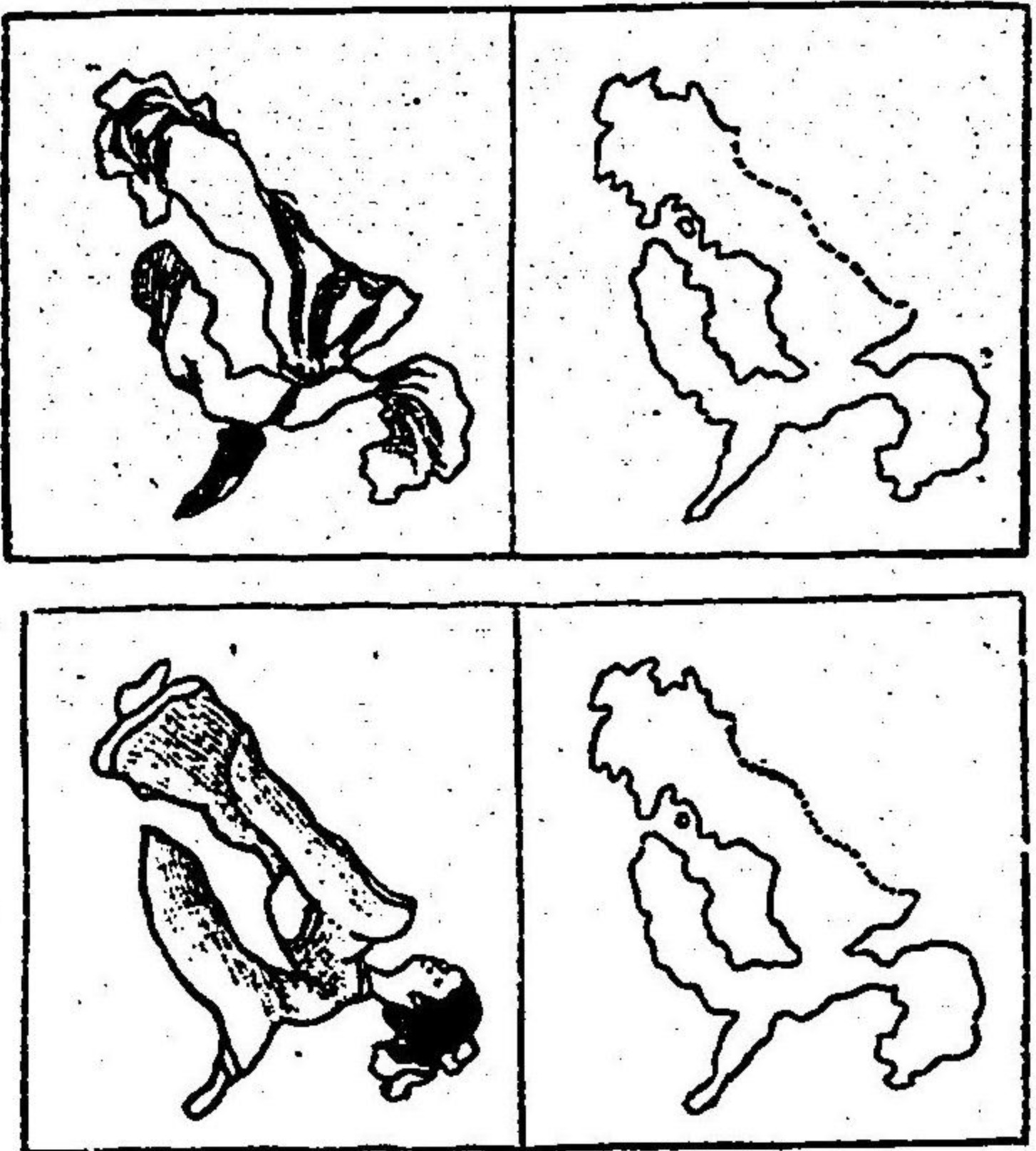
香川縣の部、人口の密度に就いては、前文第四八頁、岩手縣に關する事項の部を、參照すべし。同縣の部、白峯の振假名、シラミチを、シロミネに改む。愛媛縣の部、今治の物産、白木綿を、綿フランネルに改む。別子の記事中、精煉所の四坂島にあることを加ふ。

明治三十七年、和紙産額、全國の一三五四萬圓に對し、高知は、二八一、愛媛は、一一三、福岡は、一〇五、岐阜は、一〇四、東京は、七一、静岡は、六九、埼玉は、六一萬圓なり。

三二、福岡・佐賀・長崎・熊本四縣に關する事項 (師範第一、中學第九〇頁以下、女)

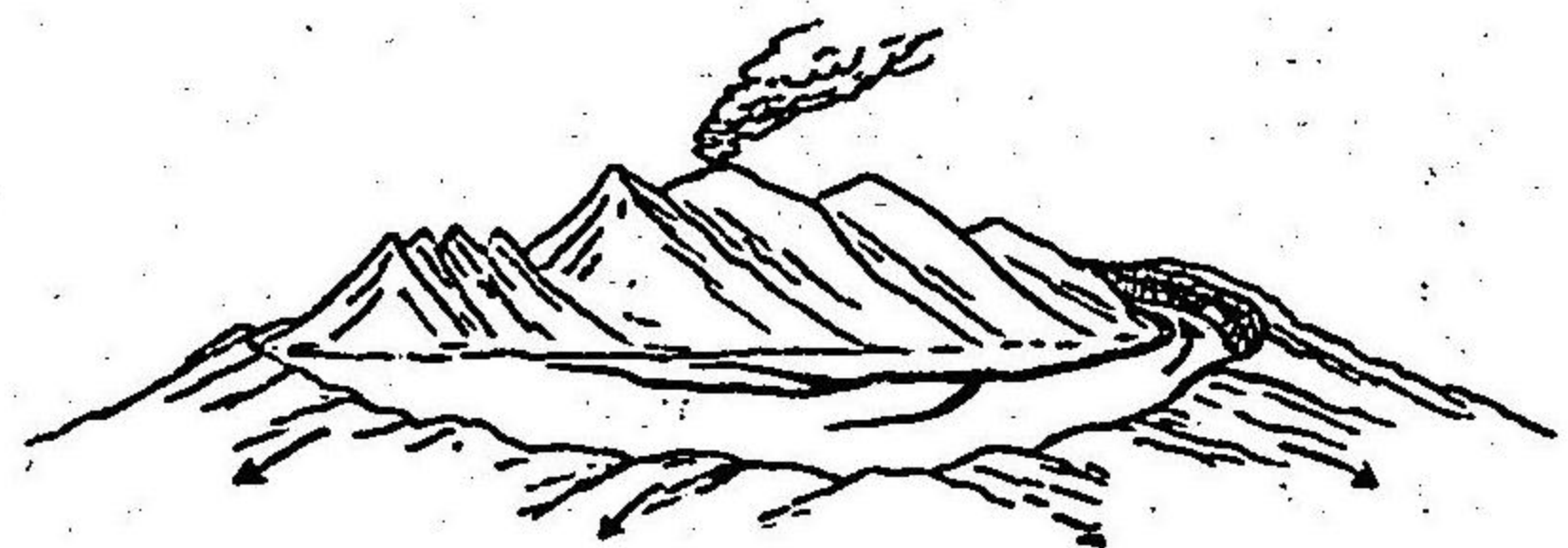
明治三十七年、生蠟及び晒蠟産額は、全國の四九八萬圓に對し、福岡は、一九七、愛媛は、九八、兵庫は、五七萬圓なり。すべて前年より、著く減少せり。

有明之海の沿海の諸港に於ては、船舶の出入及び貨物の積入積卸等に當り、潮汐升降の甚しきが爲め、特別なる手数を要するもの少なからず。例へば、築堤を設けて、海の一部を圍み、これに閘門を設け、満潮に船を入れ、閘門を締切り、而して後、荷役を爲し、次ぎの満潮を待て、船を出す



第三 如し。佐賀縣住之江港の開港となりしとは、前文青森縣の部(第八頁以下)にこれを説明せり。就いて見るべし。住之江港の位置は、圖中にこれを附記して、示せり。

地的ならざるものは、斷じて、これを排斥すべし。爰に示せる二つの長崎縣の輪廓の如きは、其の例なり(第三圖)。又別に示せる阿蘇山の圖(第四圖)は、半ば想像によりしものなれども、五岳及び舊噴火口壁(外輪山)の關



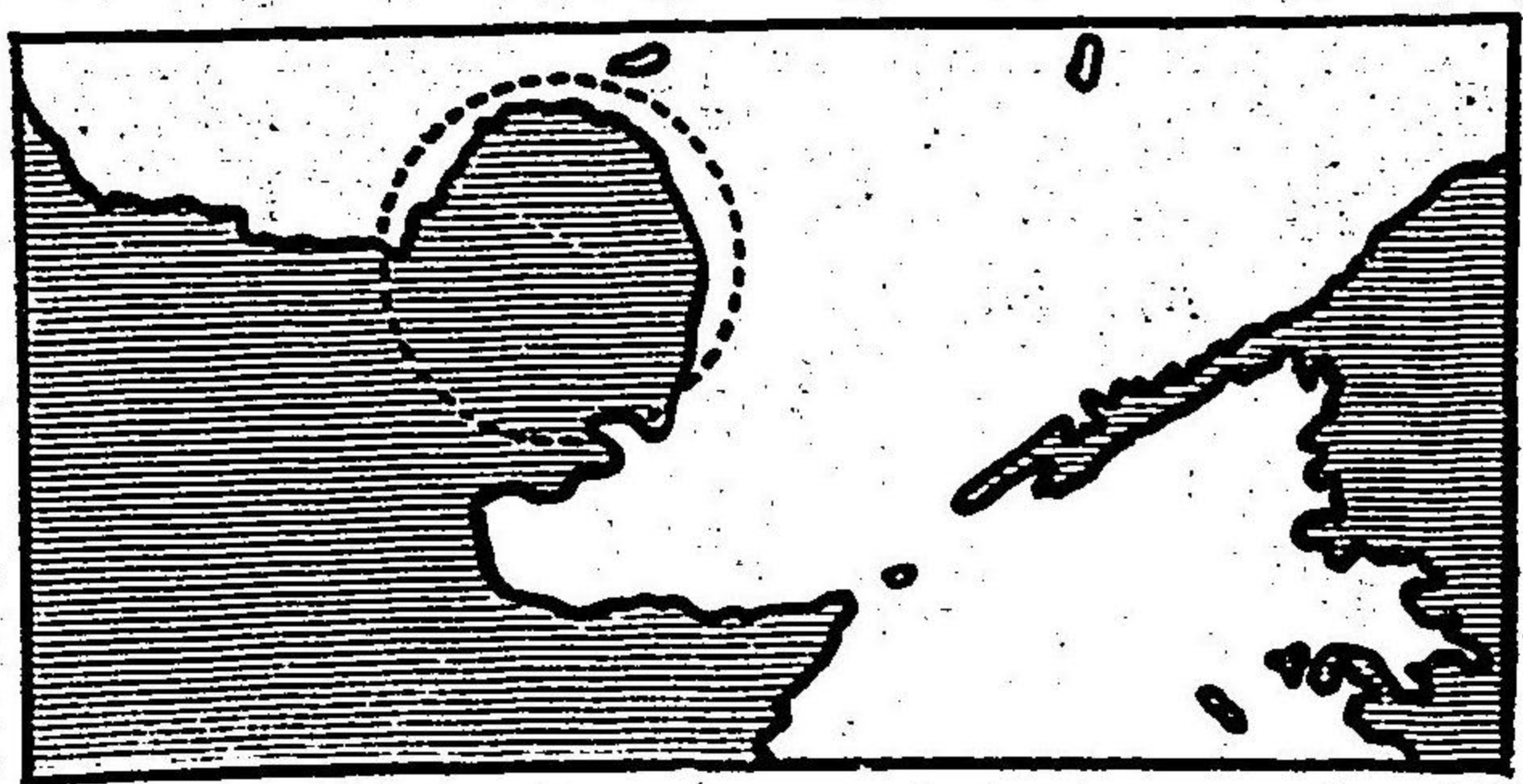
係を示すに便なり。女學校用第九六頁上欄記事、阿蘇山地の形を、阿蘇山の地形に改む。師範學校用第一二四頁、中學校用第一〇六頁、火山丘を、火口丘に改む。師範第一二五頁、中學第一〇七頁に、第六師團司令部、熊本高等工業學校あることを加へ、女學第九七頁、熊本市に、熊本高等工業學校あることを加ふ。熊本市近郊の成趣園泉水の景は、斷層に沿ひ、清泉の湧出せるものなり。師範第一二六頁第一行、本邦三急流の一にしての、十字を省く。

三三三、大分・宮崎・鹿兒島・沖繩四縣に關する

事項

(師範第一二六頁以下、中學第一〇七頁以下、女學第九八頁以下)

國東半島の輪廓は、大體圓形なり。上圖は、其の關係を示す(第五圖)。



明治三十七年、疊表產額、全國の二三〇萬圓に對し、大分は七八、岡山は四三、廣島は四二萬圓なり。宮崎縣の人口の密度に就いては、前文第四六頁、岩手縣の部を参照すべし。鹿兒島縣の金の產額に就いては、前文第五四頁、新潟縣の部を参照すべし。而して鹿兒島縣伊佐郡大口村牛尾嶽山は、明治三十七年の金產額百十六貫に達し、全國第一たり。故に鹿兒島縣金山の中に、牛尾を

加ふ。明治三十七年、全國豚頭數、一九萬二千頭の内、沖繩は八萬六千頭、鹿兒島は四萬三千頭、千葉は一萬頭なり。沖繩縣の内、沖繩諸島は、中央

標準時、先島諸島は、西部標準時を用ふ。中央標準時、西部標準時の説明

に就いては、統合地文學第一編第三章を見よ。

### 三四、臺灣に關する事項

(師範第一三四頁以下、中學第一一〇五頁以下)

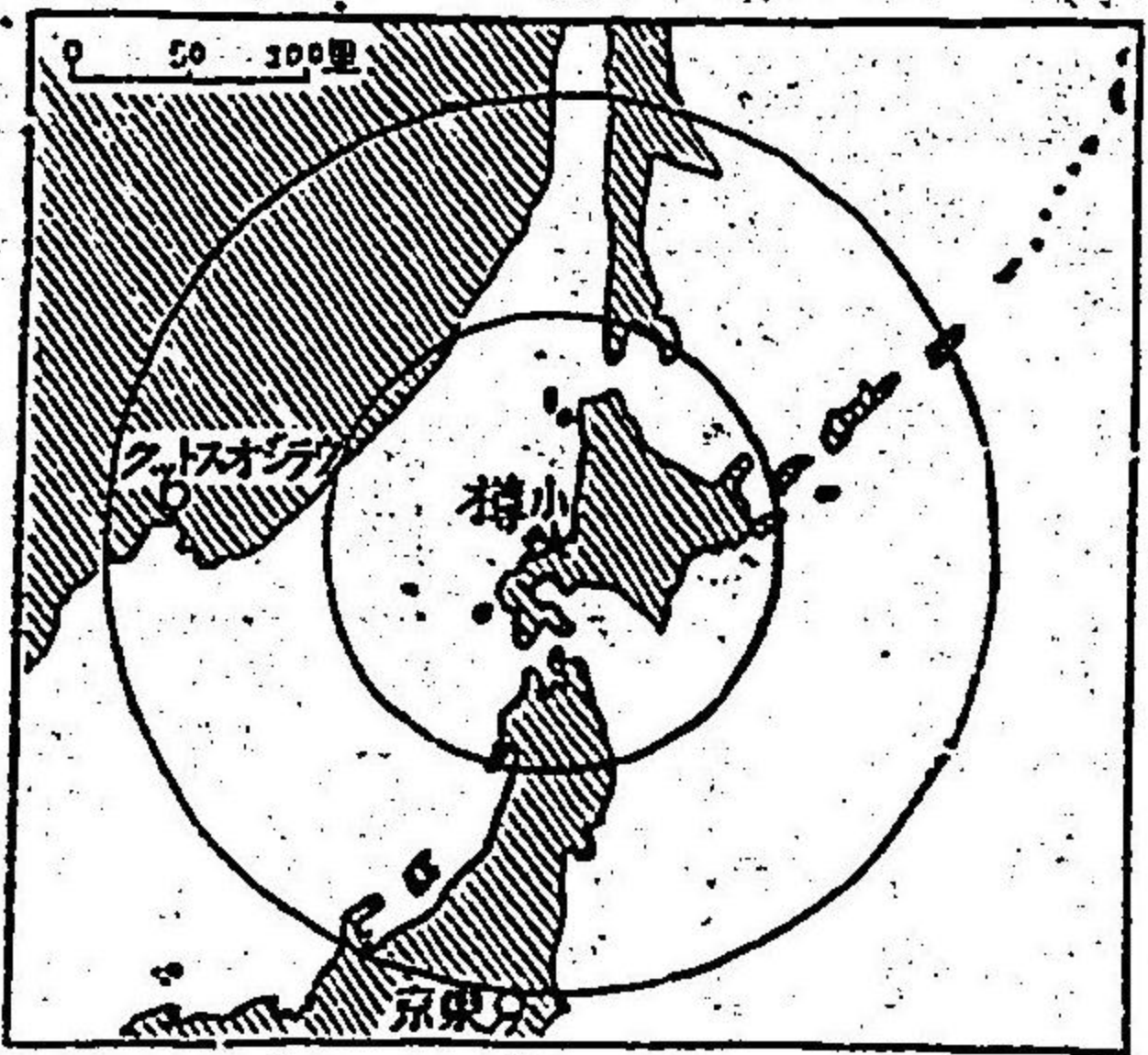
新高山の標高、一萬三千二百尺を欄外に加ふ。明治三十八年七月一日、戸口調査の結果、臺灣の人口、男一、六一〇、六〇九人、女一、四三〇、八四三人、計三、〇四一、四五二人なり。師範第一四一頁第一二行、女學校用第一一〇頁第六行、大姑陷溪を大姑陷溪に改む。臺北の記事中、大稻埕の人口を加ふ。臺南の記事中、混成旅團司令部ありを加へ、且つ女學校用には、人口を加ふ。師範學校用第一三九頁、中學校用第一一九頁、奥羽地方に同じを、奥羽地方に等しに改む。明治三十七年、臺灣の金産額、約一七九萬圓、内、砂金一六萬二千圓、岩金一六二萬五千圓なり(同年日本内地金産額は、三五七萬圓なり)。美島、イランフォルモサの名は、十六世紀の頃、ポルトガル人の命名せし所なるは、人のよく知れる所なり。蓋し、島中

の山岳高く、森林茂れる美觀によりて、かく命名せしものなりと云ふ。

### 三五、北海道及び樺太に關する事項

(師範第一二四六頁以下、中學第一二五頁以下)

三頁以下)



第六

或る地點の他に對する關係位置を示すには、其の地を中心とし、一定の距離を半径とせる圓を描くか、或は、其の地を中心とし、一定の時間に達し得べき地點を連ねたる曲線(等時曲線)を現はせば、甚だ便利なることあり。前の方法、即ち圓を描きてこれを示すは、長崎港對上海、其の他、淡水港對南清

諸港、小樽港對ウラジオストク港に應用せり(第六圖)。教授當局者は、學生をして、其の圓の半径を、地圖の尺度より測り取る等の練習をなさ



しむることを怠るべからず。

ボン然別(ボンシカリベツ)鑛山は、銀の産額次第に減少し、明治三十七年に於ては、尙六百六十七貫なりしが、全盛の時期に於て、探鑛を怠りし結果、今や殆ど廢滅せんとするに至れり。

師範學校用第一五七頁第十二行、苦前を、苦前に改む。中學校用第一三四行上欄、跡佐登の振假名、アトサヌブリを、同頁十一行、木屑の振假名、ウードバルブを加へ、第一三六頁上欄、樺太略圖を、樺太南部略圖に改む。女學校用第一一三頁第四行、五大島の最北を、五大島中最北に改め、第一一六頁上欄、枝幸及及びを、及びに改め、第一二〇頁、平取の振假名、ピラトリを加へ、第一二三頁上欄、樺太畧圖を、樺太南部略圖に改む。樺太南部に、ウラジミロフカ及びマウカの記事入れる。目下、共に民政署支署あり。ウラジミロフカへは、民政署を移すべき豫定にして、コルサコフウ

ラジミロフカ間に、目下輕便鐵道敷設中なりと云ふ。

明治三十七年、水産製造物産額、全國の三一七三萬圓に對し、北海道は、一一三四萬圓にして、何れの府縣も、二百萬圓に達するものなし。因に云ふ、樺太の水産物總額は、目下約三百萬圓なりと云ふ。同年、小豆産額、全國の七三萬石に對し、北海道は、二二萬石、熊本は、三萬七千石、茨城は、三萬四千石なり。同年、硫黄産額、全國の五六萬圓に對し、北海道は、三八萬圓なり。

明治三十八年末調査、北海道區制及び北海道一級町村制施行地の現住人口、左の如し。

區町村名	人口	區町村名	人口
札幌區	六〇、八八四	小樽區	八六、四七一
函館區	八七、二五八	旭川町	二一、九五九

余市町	一一、八一四	根室町	一二、六七五
岩内町	一六、二〇六	稚内町	九、八九〇
壽都町	八、五八七	増毛町	九、八八二
江差町	七、二四二	岩見澤町	二二、三六五
福山町	五、七四三	福島村	四、四七二
室蘭町	九、四一五	上磯村	八、五六九
釧路町	一三、六二四	大野村	七、三〇九
厚岸町	八、〇四二	伊達村	九、八七九

### 三六、人文地理住民に關する事項

(師範第一六頁以下、中學第一四〇頁以下、女學第一二頁以下)

明治三十七年末調によれば、海外在留本邦人の數、約十五萬人ありて、内、ハワイにあるもの、六萬五千なり。又明治三十九年八月末日調によ

れば、韓國に在留する本邦人は、約七萬五千に達せり。本邦在留外國人は、約一萬五千人ありて、其の三分の二は、清國人なり。

華族女學校は、學習院女學部となれり。仙臺熊本には、實業專門學校を置かるべき豫定にして、熊本高等工業學校は、已に開校せり。

### 三七、人文地理生業に關する事項

(師範第一七一頁以下、中學第一四四頁以下、女學第一一頁以下)

大林區署の數は、十六に非ず、十の誤りなり。馬の頭數に就いては、前文第四六頁、岩手縣の部、又牛の頭數に就いては、前文第六二頁、中國の部を見よ。今や新に馬政局を置かれたれば、我が國の馬の改良蕃殖等、大に見るべきものあらん。明治三十七年、全國石炭産額數量、約一〇七二萬佛噸、代價約二七六三萬圓に對し、福岡は、一八二八、北海道は、三八五、佐賀は、二二九、福島は、一三九、長崎は、九六萬圓なり。明治三十七八年の外

國貿易は、時局の影響を受け、以て常態となすべからず。然れども、年々逐ひて盛大となれる我が貿易の趨勢は、戦時中も、尙其の面目を維持し、輸出入の總額、臺灣を除き、約八億一千萬圓(内輸出三億二千一百五十三萬圓、輸入四億八千八百五十四萬圓)に達せり。而して前文第四八頁、青森縣の部に述べし如く、青森、住之江二港は、新に開港場となりしを以て、開港場の數は、通計三十七となりたり。

中學校用第一五二頁第一〇行、第一〇〇圖を、第百一圖に、第一五四頁第四行、第百三圖を、第百二圖に改め、女學校用第一三八頁第七行、調査しを、調整しに改む。

### 三八、人文地理交通に關する事項

(師範第一八頁以下、中學校以下一頁以下、女學校第一

鐵道國有法制定の結果、北海道炭礦鐵道及び甲武鐵道兩株式會社所

屬鐵道は、明治三十九年十月一日、日本鐵道及び岩越鐵道兩株式會社所屬鐵道は、同年十一月一日、山陽鐵道及び西成鐵道兩株式會社所屬鐵道は、同年十二月一日買收の事に指定せらる。隨て、本文中關係事項の記事を、これによりて、訂正すべし。全國鐵道速度の最も大なるは、現在に於ては、東海道線最急行列車にして、十三時間四十分を以て、新橋・神戸間三七五・二哩を走り、一時間平均二七四五哩の速度なり。これに次ぐは、同線の急行にして、十四時間三十分を以て走り、一時間平均二五八七哩なり。山陽線の急行列車は、十二時間三十分を以て、三三〇哩を走るものなるが故に、一時間平均二四三八哩に過ぎず。

船舶現在數、明治三十九年九月末日調によれば、汽船一四六八隻、總噸數約一百一萬噸、帆船三九八〇隻、總噸數約三四萬噸、此の外、石數を以て積量を表示する船舶、二百石以上、一一五六隻、積石數約四十五萬石なり。

東京灣より小笠原島・父島間、父島・母島間、父島・グワム島間の海底電線は落成せり。而して父島・グワム島間の線は、外國線なりとす。東京灣の起點は、神奈川縣橋樹郡田島村字大島新田にして、即ち川崎の附近なり。此の海底電線によりて、アメリカに直通するに至れり。海底電線の長さ、東京灣・小笠原島間、約六五〇哩、小笠原島・グワム島間、約九百哩なりと云ふ。

師範學校用、第一八三頁第二行及びを及びに改む。中學校用、第一五六頁第四行、なしはをなししはに同第一〇行句配を句配に、同第一五八頁第二行、濠洲線を濠洲線に改む。女學校用、第一四五頁第一行、歐州線を歐洲線に改む。

### 三九、人文地理政治に關する事項

(師範第一八七頁以下、中學校第一五九頁以下、女學校第一五三頁以下。)

日露戰役により、四個師團増設せられたり。第十三、十四、十五、十六の成地は、未だ定まらず。右の中、第十四、第十六の兩個師團は、滿洲に、第十三、第十五の二個師團は、韓國に駐在す。

樺太の海岸海面は、第一海軍區所屬となり、又旅順口は、軍港となり、これに、鎮守府を置かれたり(名稱は、旅順軍港旅順鎮守府なり)。明治三十七年度、同三十八年度は、日露戰役に際し、同三十九年度は、戰後の財政、未だ常態に復せざるものあり。隨て、これを以て比較すべからずと雖も、明治三十九年度の豫算歳出、五億に達せしを以て見れば、我が國今後財政の大體を推知するに難からず。國債の高下の如し。明治三十九年八月末日調によれば、内國債、九億二千四百萬圓、外國債、十一億三千八百萬圓、計二十億六千二百萬圓なり。條約國の中より、韓國及び印度を省

くべきか。又チリとの條約は、已に批准交換せられたりと云ふ。  
師範第一八七頁第四行、萬國を世界に改む。

四〇、韓國及び關東州租借地に關する事項(師範第一九

學第一五六頁以下、女。

韓國畧圖(師範第四百四圖、中學第百八圖、女學第百四圖)中、鐵道の終點を、義州より離す。理事廳所在地は、京城、仁川、馬山、木浦、群山、鎮南浦、釜山、元山、城津、平壤、大邱なり。京城圖(師範第四百十七圖、中學第百十一圖、女學第百七圖)中、日本公使館を省き、景福宮の南東に、統監府を入れ、京城停車場を、西大門停車場と訂正す。仁川附近圖(師範第四百十八圖、中學第百十二圖、女學第百八圖)中、京城附近の鐵道線路に誤りあり、これを訂正す。師範第二〇二頁第七行、中學第一七三頁第五行、女學第一六一頁第十一行、京義鐵道の終點なりの上、附近の新義州はの七字を加ふ。

關東都督府官制大要。關東都督は、關東州を管轄し、並に南滿洲に於ける鐵道線路の保護及び取締の事を掌り、南滿洲鐵道株式會社の業務を監督す。都督は、親任とし、陸軍大將又は中將を以て、これに充て、部下軍隊を統率し、外務大臣の監督を承け、諸般の政務を統理し、特別の委任により、清國地方官憲との交渉事務を掌理す。都督は、其の職權、又は特別の委任により、都督府令を發し、これに、禁錮一年以下、又は罰金二百圓以内の罰則を附することを得。又安寧秩序を保持する爲め、臨時緊急を要する場合に於て、前條の制限を越ゆる罰則を附したる命令を發することを得。其の管轄區域内の安寧秩序を保持し、又は鐵道線路の保護及び取締を行ふ爲め、必要と認むるときは、兵力を使用することを得。都督府に、都督官房、民政部、陸軍部を置き、民政部には、庶務、警務、財務、土木の四課及び監獄署を置き、關東州を三區に分ち、各區に、民政署を置く、旅

順・大連・金州。

關東都督府法院は、關東都督に直屬し、民事・刑事の裁判を爲すことを掌り、分ちて、地方法院及び高等法院各一ヶ所とし、判官・檢察官を置く。關東都督府陸軍部は、參謀部・副官部合して幕僚・法官部・經理部・軍醫部・獸醫部の六部より成る。

韓國駐節軍司令官は、陸軍大將又は陸軍中將を以てこれに親補し、天皇に直隸し、韓國駐節陸軍諸部隊を統率し、韓國の防衛に任じ、韓國の安寧秩序を保持する爲め、統監の命令あるときは、兵力を使用するを得。軍司令部は、軍參謀部・軍副官部合して幕僚・軍法官部・軍經理部・軍軍醫部・軍獸醫部の六部より成る。

統監府及び理事廳官制大要。韓國京城に、統監府を置き、統監は、親任とし、天皇に直隸す。統監は、韓國に於て、帝國政府を代表し、帝國駐節

外國代表者を經由するものを除く外、韓國に於ける外國領事館及び外國人に關する事務を統轄し、併せて、韓國の施政事務にして、外國人に關係あるものを監督す。統監は、條約に基き、韓國に於て、帝國官憲及び公署の施行すべき諸般の政務を監督し、其の他、從來帝國官憲に屬したる一切の監督事務を施行す。又韓國の安寧秩序を保持する爲め、必要と認むるときは、韓國守備軍の司令官に對し、兵力の使用を命ずることを得。韓國の施政事務にして、條約に基く義務の履行の爲め必要なるものは、統監に於て、韓國政府に移牒して、其の執行を求むべし。但し急施を要する場合に於ては、直に韓國當該地方官憲に移牒し、これを執行せしめ、後、これを韓國政府に通報すべし。統監は、帝國官吏、其の他のものにして、韓國政府の備聘に係るものを監督す。統監は、統監府令を發し、これに禁錮一年以下、又は罰金二百圓以内の罰則を附することを得。

統監の外、統監府に、總務長官、農商工務總長、警務總長等の職員を置く。韓國須要の地に、理事廳を置く。理事廳に、理事官以下の職員を置き、理事官は、統監の指揮監督を受け、從來韓國在勤領事に屬したる事務、並に條約及び法令に基き、理事官の執行すべき事務を管掌す。

序を以て記す。臺灣總督府職員及び關東都督府文官の加俸は、俸給額十分の三にして、滿二年間、臺灣總督府文官を勤務したるものには、前項の金額の外、更に俸給額二十分の一に相當する金額を増給し、滿二年以上は、一ヶ年を加ふる毎に、二十分の一を増給し、加俸金額、俸給額十分の五に至りて止む。然るに統監府及び理事廳職員には、本俸及び在勤俸を給せられ、在勤俸の年額は、本俸に同じく、唯判任官に付ては、九百圓以内に於て、統監これを定む。加ふるに、統監には、年額一萬二千圓、總務長官には、三千圓、理事官には、千五百圓以内の交際手當を給せらる。

## 乙 外國地理の部

### 一 韓國に關する事項 (中學、師範、女、學各上卷)

韓國に關するものは、前文を見るべし。京城圖、仁川及び附近の圖中、訂正すべき事項、前に掲げたり。又大同江下流附近圖中、兼二浦の位置を、大同江の左岸に移す。兼二浦の交通上の價值は、嘗て想像せられしよりも、實際甚だ少しと云ふ。鎮海灣は、對馬海峽に對し、日韓の國防上、甚だ大切なり。馬山浦、其の奥にあり。又永興灣も、北韓に於て、兵要上、大切なり。元山、其の中にあり。これ等二つの灣を、軍港として、帝國政府に於て、經營すること、韓國政府の承諾を得たりと云ふ。

中學上第三五頁第一行、女學上第三〇頁第三行、京義鐵道の終點の上、附近の新義州は、の七字を加ふ。師範上卷第二六頁第十二行、京釜を京

義に改む。

明治三十九年八月末調査によれば、在韓邦人(各理事廳管内)の總戸口數左の如し。

城	元	釜	馬	木	群	仁	京	戸	男	女	男女合計
津	山	山	山	浦	山	川	城	數			
二二七	一九四	五、五八六	八三三	六八四	八七一	三、二一六	四、三四一		九、二七八	七、〇五〇	一六、三二八
									七、五四五	五、七四一	一三、二八六
									一、九〇三	一、三二三	三、二二六
									二、〇〇七	一、〇九七	三、一〇四
									一、八九二	一、二五五	三、一四七
									一一、四七九	九、一七三	二〇、六五二
									三、三八七	二、五〇九	五、八九六
									五〇七	二四一	七四八

平	鎮	合	二	三	四
壤	南	計	清	國	國
一、八二九	浦	一九、四九〇	國	の	の
三、四八一	七六三	四三、一六八	面	積	二
二、二三〇	一、六八九	三二、八〇九	積	二	十
五、七一一	一、二〇〇	七四、九七七	六	倍	を
			二	十	五
			倍	に	改
			む。		

二、清國に關する事項(中學、師範、女、學、各、上、卷)

清國の面積二十六倍を二十五倍に改む。支那の山脈に就いては、前文第二二頁に名を示せし、石井理學士の原文を参照せよ。黄土に就いては、備考第一篇を見よ。書經、禹貢に、其土黃とせるもの、即ち所謂黄土なり。清國の交通上、特に注意すべきは、鐵道の發達にして、我が國の經營に成れる東清鐵道及び奉新鐵道(奉天新民屯間三六哩六五鎖)の外、竣工のもの及び工事中のもの、左の如し。

竣工のもの。



名稱	線路	延長(哩)
津榆	天津山海關間	一七三
京津	北京天津間	八七
京通	北京通州間	一四
龍州	龍州諒山間	五〇
松滬	上海吳淞間	一四
萍潭	萍鄉湘潭間	三五(萍鄉醴陵間)
關外	山海關新民屯間 營口溝幫子間	二九六
西陵	高碑良谷庄間	二六
山東	青島濟南間	三四三
京漢	北京漢口間	九三三

工事中のもの。

名稱	線路	延長(哩)
滬寧	上海南京間	二三三
澤道	道口澤州間	一一八五
正太	正定太原間	一六六
潮汕	汕頭潮州間	二〇
滇越	東京雲南間	二〇〇
川漢	成都漢口間	一、三三三
京張	北京張家口間	一二三

憲法發布と官制改革とは、遠からずして實施せられんとし、又陸軍兵制の改革は、已に根本的に行はれたれば、清國陸軍の面目は、昔日の比に非ずと知るべし。南滿洲の開放と共に、奉天には、總領事館、鐵嶺には、其の領事分館、營口及び安東縣には、領事館を設けられたり。租借地關東

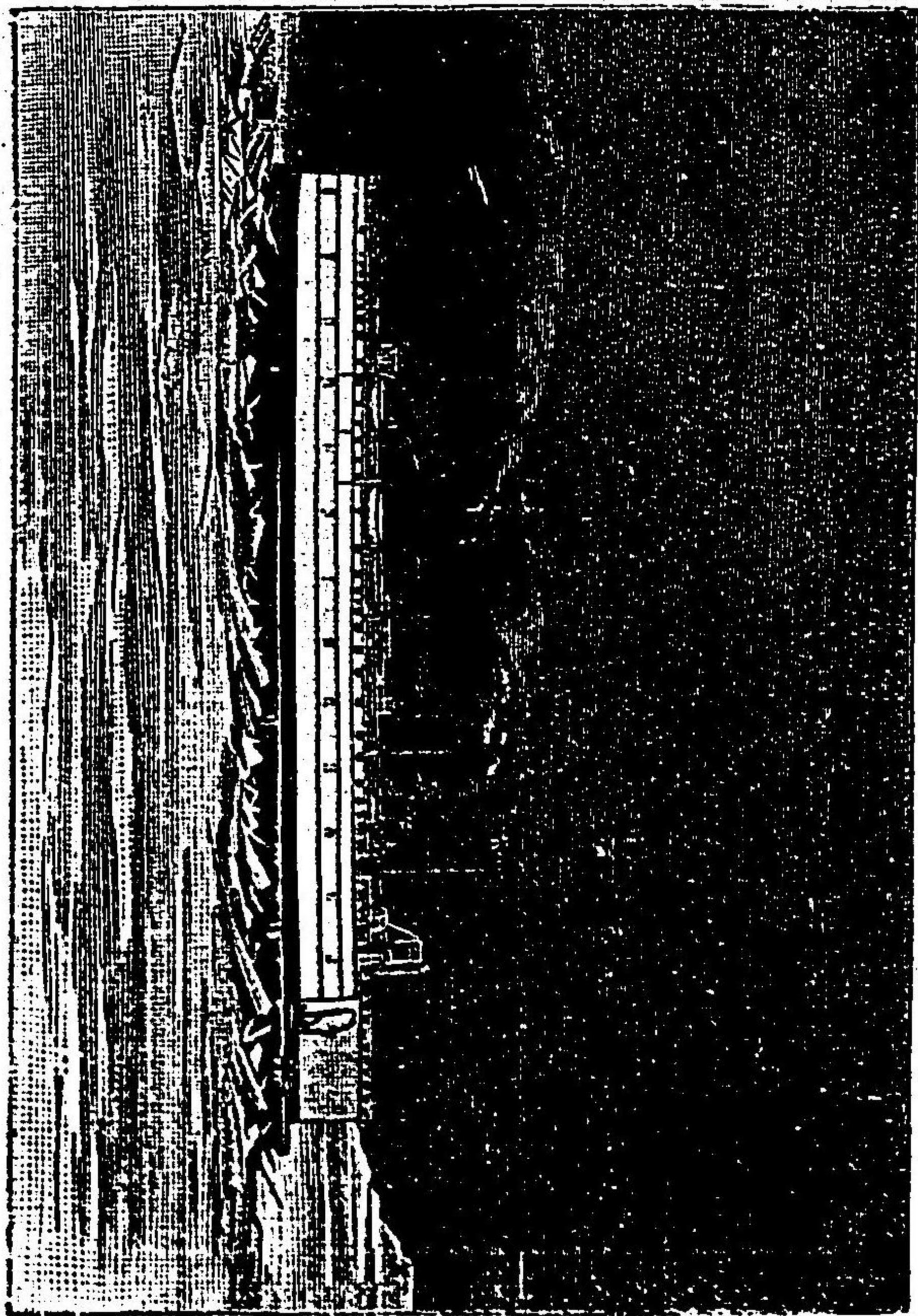
州に置かれたる關東都督府に就いては、前文第七八頁を見るべし。

女學上第三二頁第十二行、第三三頁第一行、黑龍江の江を、黑龍江に、第四一頁第二行、第四九頁第五行、新疆を新疆省に、第四四頁第二行、産地とを、産とに改む

南滿洲の馬蜂溝は、鐵嶺を距ること西方約一里、遼河水運の要點に位し、鐵嶺の河港にして、鐵嶺との間、敷石の通路を通じ、甚だ重要なる位置にあり。鐵嶺に、師團司令部あること、旅順新市街建物もと露國の建設せしもの、甚だ大なること、大連市街の形の特有なること、即ち多中心（ポリセントリック）にして、放射同心的（ラヂヤルコンセントリック）なること、南滿洲鐵道株式會社の設立せられしこと、安奉鐵道（輕便鐵道）の屈曲甚しきこと等は、已に人のよく知れる所なれば、こゝに略す。

三、アジャロシヤ及び西部アジャに關する事項（中學師範）

（女學各上卷）



師範上第五

四頁第二行、五ケ間を、五ケ月間に、同第五五頁第十行、女學第六〇頁第十二行、キアフタを、キアフタに改む。

上圖は、ロシヤ政府の編纂

八九

にかゝる、シベリヤ鐵道案内記に見えたる、碎氷船の圖なり(第七圖)。ペ  
ルシヤには、憲法制定せらるべしと云ふ。バグダード鐵道は、ドイツ鐵  
道會社に許可せられ、其の總延長、約二千四百杆、コニヤより、アダナ・モス  
ル・バグダードを経て、バスマラに至り、ペルシヤ灣に至るを本線とし、數多  
の支線あり。其の中、コニヤ・エレグリ間一二五哩は、一九〇四年十月に、  
完成せり。此の鐵道完成せば、チグリス・ユーフラト河流域の開発と共に、  
これ等地方に對するドイツの勢力は、非常に増大すべし。シリヤ沙  
漠に關する工學博士伊東忠太氏の旅行談、載せて地學雜誌第二百十二  
號二百十三號にあり。就いて見るべし。

#### 四、南部アジヤに關する事項 (中學師範女)。

中學上第九一頁第十二行、師範上第六九頁第七行、女學上第七四頁第  
七行、ガンガ河の流域を、アッサム地方に改む。シヤムの記事、中國債少

しもなく、を國債少くに改む。シヤムには、もと國債少しもなかりしが  
西曆一九〇五年三月、鐵道敷設の爲め、百萬磅の國債を起したり。女學  
上、第七五頁第七行、トンヅ一種の上に、住民はの三字を加へ、同第七九頁  
第三行、第四行、貿易港と良港とを入れかへ、第八〇頁第十行、ポンヂシエ  
リーの歐文、Pondicherrを、Pondicherryに改む。カルカッタには、遠からず  
して、我が總領事館を置かるべしと云ふ。

#### 五、大洋洲に關する事項 (中學師範女)。

オーストラリヤの金の産額に就いては、前文第二七頁を見るべし。  
一地の對蹠點を發見する方法は、統合地文學第一篇第三章によりて、こ  
れを知るべし。新刊ステレラル大地圖には、對蹠點を、一見直ちに圖上  
に發見し得べく、兩半球を重ね合せし、特別の圖あり。教授上最も趣味  
あり、又利益あるものなり。マリアナ群島中のグアム島へ、小笠原島よ

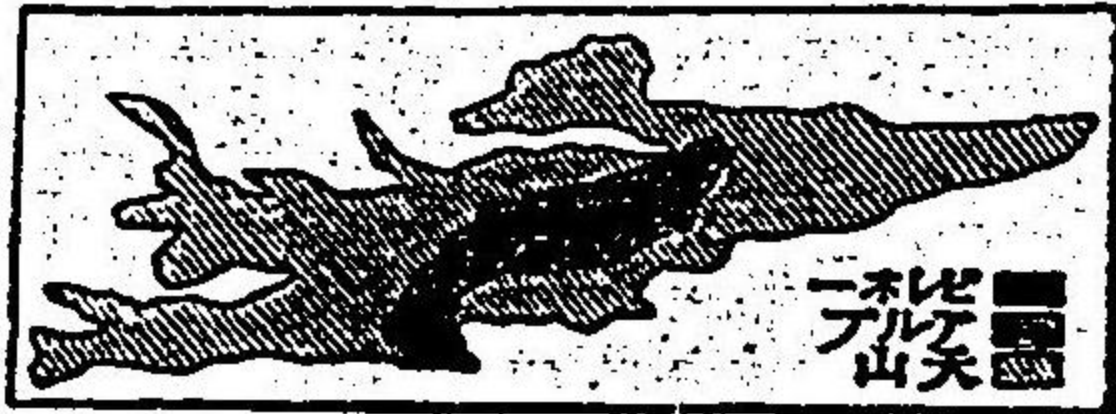
り、海底電線の通ずることは、前文帝國地理之部第七四頁に述べたり。  
 中學上第一三一頁第八行、遂にの二字を省き、師範上第九四頁第十行、  
 ポリネシヤの歐文、Polynesia を Polynesia に改む。

コブラは、椰子の一種類、ココ椰子 (Coco, Coconut) の實の核を乾したるものにして、太平洋諸島、主要輸出品の一たり。ヨーロッパにては、これより油を搾取し、此の油は、一種の蠟燭及び海水温浴シヤボン製造等の用に供せられ、或は、食料品となる。チョコレートChocolateの原料たるココ椰子 (Coco)、或はカケイオ (Cacao) とは別物なり。後の方は、野口氏世界經濟地理原料篇第一〇四頁に、記事及び圖あり。又コブラと、蛇の一種類たるコブラCobraと、混ぜべからず。

因に云ふ。クルガルヂーとガルクルヂー、ギネヤとギヤナ、エルブルス峰とエルブルズ山脈等、發音似たる地名に就いては、教授上、特に注意すべし。

### 六、ヨーロッパに關する事項 (中學中卷、脚註、女學各下卷)。

アルプ山脈は、ヨーロッパに於ては、第一の大山脈なれども、アジアの大山脈に比すれば、甚だ小なり。上圖は、ピレネー、アルプ、天山三大脈の比較を示す(第八圖)。



第八圖

	ヨーロッパ	ロシア	アジア	ロシア	コーカシヤ	計
馬	二四、〇五一	一、二三四	四、二五四	二九、五三九		
牛	三三、二〇八	二、八七三	四、四八三	四〇、五六四		
羊及び山羊	四七、四九六	七、七〇六	九、一九二	六四、三九二		
豚	一一、一九七	七三七	七三四	一三、六六八		

英佛獨には、我が大使館を置かれ、又露境以の我が公使館は、遠からず

して、大使館に變ぜらるべしと云ふ。中學中卷第二二頁上欄「クロンスタット」を「クロンスタット」に、同第二六頁第三行「ヘン」を「ヘル」に改む。ドイツの部上欄「石炭産額割合、イタリヤの部、上欄「硫黄及びアンチモニー産額割合」に就いては、前文の帝國地理の部、第三〇頁以下を見よ。中學中卷第五三頁第七行、師範下卷第三七頁第九行「ルメリヤ」を「ルメリヤ」に改む。中學中卷第六七頁第二行「デヤ」を「デー」に改む。同中卷第七一頁第二行、師範下卷第五二頁第十二行「レマン湖」を「ジエネバ(レマン)湖」に改む。萬國赤十字本部あることを、ベルンの記事の中より省き、ジエネバの記事中に加へる。中學中卷第八五頁第六行「グイアナ」を「ギアナ」に改む。師範下卷第一五頁第八行「グロニスタット」を「クロンスタット」に、第四三頁「チベル」を「タイバー」に、第五五頁上欄「ブルタニ」を「ブリタニー」に、同第七四頁第九行「ニューファウンドランド」を「ニューファウンドランド」



國 九 第

山上地理教科書備考 第四篇

に改む。イギリスドイツの石炭及び鐵産額に就いては、前文帝國地理の部、第三〇頁以下を見よ。

七、アフリカに關する

事項(中學、師範、女學、各上卷)

トランスバール

の金産額に就

いては、前文の帝國地理之部第二七頁を見よ。ポルトガル領南西アフリカとイギリス領なる北西ロデシヤとの間の地方Barotsseに就いては、兩國間の境界、久しく不明なりしが、近頃漸く決定を見るに至れり。又第九圖は、アビシニヤの都會、アンコーベルAnkober(シロアの舊都)の圖にして、グレゴアルの地理書に掲げたるものなり。中學第四頁第二行、ザンベシの歐文、Zambesiを、Zambeziに、第八頁第二行、地中海人種を、ヨーロッパ人種に、第一八頁第十行、ブッシメンを、ブッシマンに改む。師範生第一一八頁第六行、金産地を、産金地に改む。

八、北アメリカに關する事項(中學師範、女)

マッキンレー峯は、北アメリカの最高峯にして、高さ二〇、四六四呎、中央アラスカの南部にあり。クック灣頭の北、百五十哩の所に位し、白雪を戴き、氷河に圍まる。ロシヤ人は、此の峯を、ホルシヤ峯と呼ぶ。アCook Inlet Boisjany

メリカ合衆國の金、銀、銅、石炭、石油及びメキシコの銀産額に就いては、前文帝國地理之部第二七頁を見よ。

中學下第四三頁第一行、エスキモー人を、エスキモ一人に、同第四四頁第一一行、立憲政體を、立憲民主政體に、師範下第九三頁第一行、日を逐ひてを、日を逐ひてに、女學下第九八頁第一行、第二行、ジャマイカを、ジャマイカに改む。カナダの中に、サスカチエワン及びアルバータの二州、新設せられたり。カナダの北西地方、漸次開發に赴くを見るべし。Saskatchewan Alberta

九、南アメリカに關する事項(中學師範、女)

チリとの通商條約は、明治三十九年六月二十八日批准せられたり。同國のイキケは、硝石輸出港として有名なり。近時東洋汽船株式會社は、南米の西岸諸港に、新しく航路を開きたり。近時の大地震により、サンチャゴ及びバルパライソの慘害甚しく、有名なるジャンフェルナン

デス鳥は、大部分、海底に沈降せしと云ふ。師範下第一一七頁第一行、策五篇を、第五篇に改め、同一一八頁第五行、亦の一字を省き、女學下第一一六頁第三行、畫猶ほを、畫尙ほに改む。

一〇、人文地理通説に關する事項 (中學、師範、女)

中學下第一二二頁、上欄アフリカ人種の次ぎに、黑人種一名エチオピヤ人種、人口約一億四千四百萬を加へ、同一二四頁第一行、バブアを、ニギネヤのバブア種に改む。銑鐵、鋼、金、石炭の各産額圖は、前文第二七頁、帝國地理之部中に掲げたる統計により、訂正すべし。最近の世界主要國輸出入額總計(西曆一九〇六年英國政家年鑑による)は、イギリス八億五千萬、ドイツは六億一千万、北米合衆國は五億一千万、オランダは三億七千万、フランスは三億六千万、ベルギーは二億、ロシアは一億六千萬、スウイスは九千万、日本は七千万磅なり(主として、西曆一九〇四年の事

實による)。

中學第五〇頁第一一行、總攬しを、總攬しに、第二五二頁第四行、條約を、條約に、第一五三頁第十一行、第十二行、スウイス、ポルトガル、ベルナルゼンチンの四國は、外交事務單簡なれば、特別に公使館を置かずを、スウイス、ポルトガル、ベルナルゼンチンの四國は、外交事務單簡なれば、專任の公使を置かず、に改む。同第一五四頁第一行、外交交を、外交に、第一五七頁第十二行、第一五九頁、第一〇行、第一六〇頁第一行、膨張を、膨脹に、第一五八頁第七行、とはを、等は、に、第一五九頁、第五行、盡しを、盡しに、同頁第一一行、戰後を、戰役に、第一六〇頁第五行、年を追ひを、年を逐ひに改む。師範第一七四頁第三行、ベルを、ベルに、女學第一五三頁第一三行、ポルトガル、ベルを、ポルトガル、ベルに改む。

人文地理上、一國の外國發着郵便物の數も、其の國と、諸外國との關係

の如何なるかを示す上に於て、少からざる光を與ふるものなり。今我が國の外國通常郵便物の數を見るに、明治三十六年度に於て、約一千六百萬なりしもの、明治三十七年度に於ては、約二千二百五十萬に達せり。以て我が國の對外關係の頻繁を加ふる度、劇甚なるを知るべし。而して明治三十七年度の約二千二百五十萬の中、韓國は、九百三十萬、北米合衆國は、四百九十萬、清國は、四百三十萬、イギリスは、百二十萬、ドイツは、七十萬、フランスは、四十萬なり。韓、清兩國の多きは、固より怪しむに足らず。北米合衆國の第二に位するは、これ我が國民の、其の國土、特にハワイに在留せるもの、甚だ多きと、貿易關係の盛大なるとによれり。イギリスの第四に居る、亦通商の盛大と、其の他の原因とによれり。獨りドイツの第五に位して、フランスをも凌げるは、東亞に於て、我が國に對し、ドイツ貿易關係の、次第に頻繁となれる結果に外ならずして、ドイツ貿易の東亞に於ける活動の一餘波なり。以てドイツ國東亞貿易の一斑に想ひ及ぼすべきなり。

### 丙 地文の部

#### 一、地球星學に關する事項。

平年、閏年の別を立つる法(師範第九頁第三行以下、中學第八頁以下)を、左の如く、訂正す。

神武天皇即位紀元年數の、四を以て整除し得べき年を、閏年とす。但し紀元年數より、六百六十を減じ、百を以て、整除し得べきもの、中、更に四を以て、其の商を整除し得ざる年は、平年とす。これによれば、明治三十三年、神武紀元二千五百六十年は、平年、明治四十一年は、閏年なり。

小遊星の位置、及び數を、左の如く、訂正す(師範第一頁第一一五行、中學第一頁第一一〇行)



「此の外、木星、火星の間に、六百以上の小遊星あり。」

太陰の一回轉期(師範第一二頁第八行、女學第一一頁第五行)を、約二十九日二分の  
一に改む。

新月の形(師範中學各第一一圖)を、逆に訂正す。

ステレラル大地圖に、對蹠點を示せる特別の地圖あることは、前文第九一頁、外國地理之部に、これを述べたり。

直射圖法の性質は、備考第二篇に掲げたる地圖及び繪によりて明かなり。別圖は、直射圖法の赤道投影即ち兩極圖、子午圈投影即ち半球圖の二つのものより、地平投影を作る手續きを示ししものにして、用器畫に於けると同じ。地平投影に、地形を記したるは、一覽に便ならしむるが爲なり(第十圖)。

## 二、陸界に關する事項。

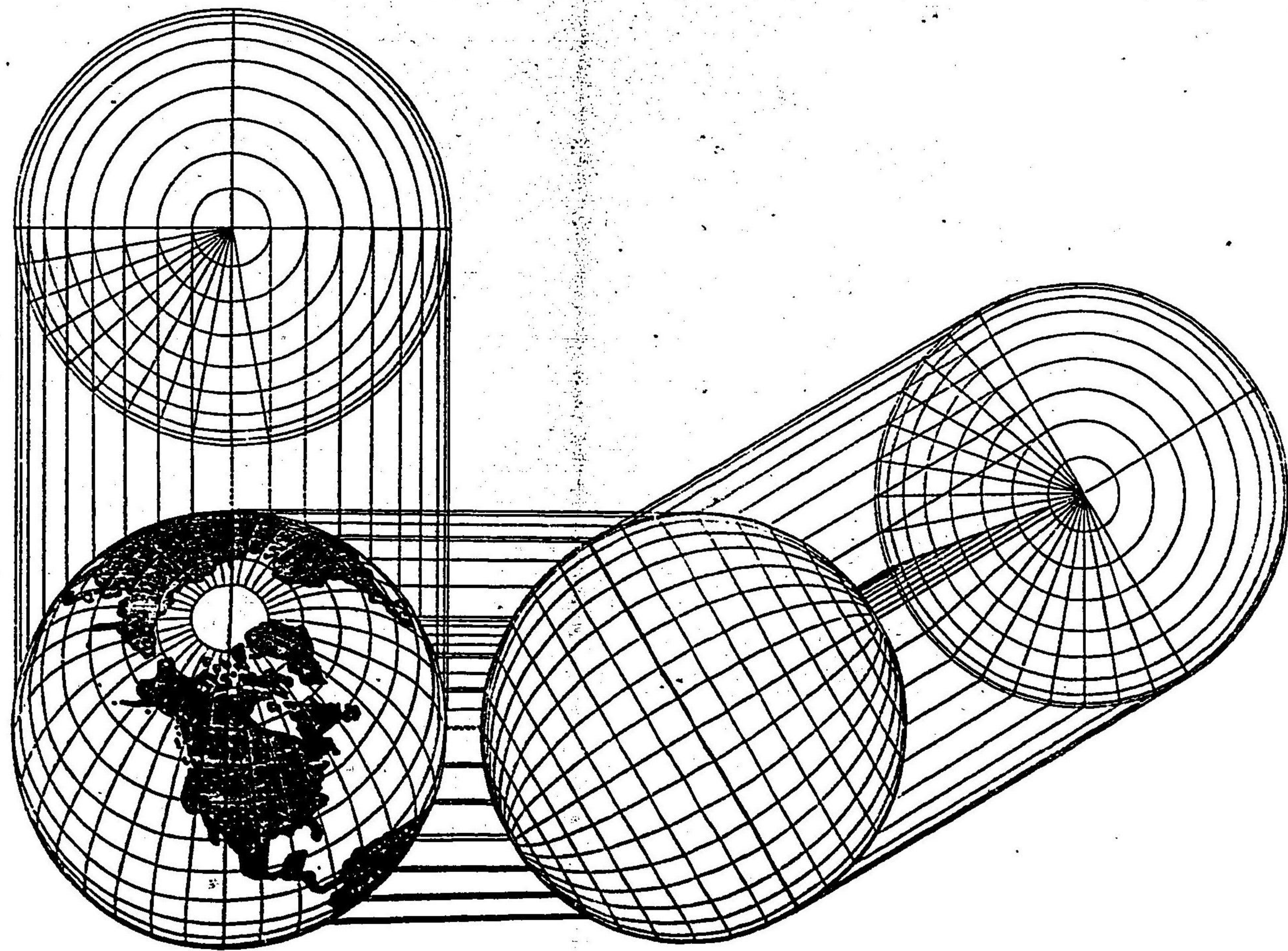


圖 十 第

海岸線の性質を比較するの法(師範第三〇頁第四行)を下の如く訂正す。第一は海岸線の總延長を以て面積を除し、海岸線の單位の長さ(例へば一里)に就いての面積例へば幾何方里を見るにあり。

海岸線の性質を比較するに、第四の法あり。即ち海岸の一地點例へば、一の岬の端より、海岸の他の地點例へば、他の岬の端まで、出入なきものとして、外線の想像海岸線假りに、外線と名づくの長さを測り、實際の海岸線假りに、實線と名づくの長さとを比較するにあり。紀伊半島の如きものに、これを應用し得べし。要するに、本文の第二のもの、即ち等圓の圓周に比較するものを除き、他の方法により得たる結果は、實際に適合せざることあり。又第二の方法といへども、時として、實用に違ふることありと知るべし。

リヤス式の海岸。リヤス海岸は、フールド(峽灣)に似たり。其の名稱

の起因は、下の如し。イスパニヤの北西岸には、輪廓長く續きて、陸地の谷に似たる特種の灣ありて、海の方に向ひ擴がり、三十軒迄も、陸地に喰ひ込めり。之を、この地方にては、リヤスと云へり。有名なる地理學者、リヒトホーフReich氏は、同じ標式の海岸に、すべてリヤス式海岸の名稱を下すに至れり。

リヤスは、峽灣に似たれども、峽灣と異なる所は、其の灣の海底が、平なることこれなり。峽灣は、海底盆の如く、口よりも、中深し。峽灣に於ける如く、リヤスに於ても、其の灣の奥には、谷ありて、砂礫を流すこと少き小河、流れ込めり。従てリヤスは、比較的の海底埋没の憂を免る。西洋にては、氷河時代に、氷河にて掩はれざる所は、峽灣に非ずして、リヤス式海岸を以て、代表せらる。日本にては、豊後海峽東、西兩岸、但し西岸にては、佐賀縣以南なり、紀伊海峽東、西兩岸、及び紀州の殆ど全岸、志摩の全岸、北

上山系の東岸、但し金華山以北、土佐南西岸、長門一部(北岸)、天草、對馬、五島の大部、奄美大島諸島の中の大島本島等なり。即ち古生層、中生層に、最も多し。西洋に於ては、リヤスは、イスパニヤの北岸と、北西岸との外に、イギリスのCornwall、又ブラジルのRio de Janeiroより遠からざる所の東岸、其他甚だ多し。南部支那の東岸にも、これありと云ふ。リヤス式の海岸も、峽灣の如く、島に富めり。但し峽灣に比しては、稍少し。

リヤスの成因は、多く海面下に、谷の沈降せるにあり。リヒトホーフ氏は、海も同時に盪撃作用を及ぼし、以てリヤスを生成せりとなせり。固より灣の入り込みは、波の盪撃作用によりて、著く變化を受け、又強き潮汐は、リヤスを洗ひ去りしものあるべけれども、單に海のみ作用に因りしものとして、リヤスを見るを得ず。ゲルマシヤ(オーストリア)の、

西岸は、リヤスに極めて近き特種の海岸を有せり。此の部に於ては、明かに谷が、水面下に沈降せしものにして、特に縦谷が、斯くなりしものなり。故に山脈の諸山列は海岸に並行せる島となりて、分離し了れり。想ふに、鳥羽港附近に、この小規模のものあるべし。要するに、日本のリヤスの成因は、中生層古生層の褶曲山脈が、海に臨みたる所にありて、其の谷が、海底に沈降せしものなり。

兩岸比較的傾斜急にして、海底は、稍平かに、深さ二十尋内外なり。喇叭狀に開き、且つ樹の枝の如く、數多の支灣あり。本谷及び支谷の奥には、小川あり、大河なし。土砂を流さず、故に保存せらる。太平洋岸に最も多し。本谷の方向、地層の走向に並行せるもの少からざれども、これと角度をなして交れるもの、方稍多しとす。即ち縦岸より、横岸の方、稍多し(走向に並行せるは、縦岸、走向を横斷せるは、横岸なり)。これ日本

のリヤスに對する、重要事項の二三なり。喇叭狀樹枝狀に開ける輪廓は、地震津浪と著き關係あること、今村氏の地震學を見ても、明かなり。リヤスは、港を成すことあり。これをリヤス式の港と云ふ。又リヤス式の島もあり。朝鮮南岸は、リヤス式海岸として、ワグネル氏地理書にあれども、甚だ疑はし。恐くは、灘式即ち瀬戸内式に相當するものならん。

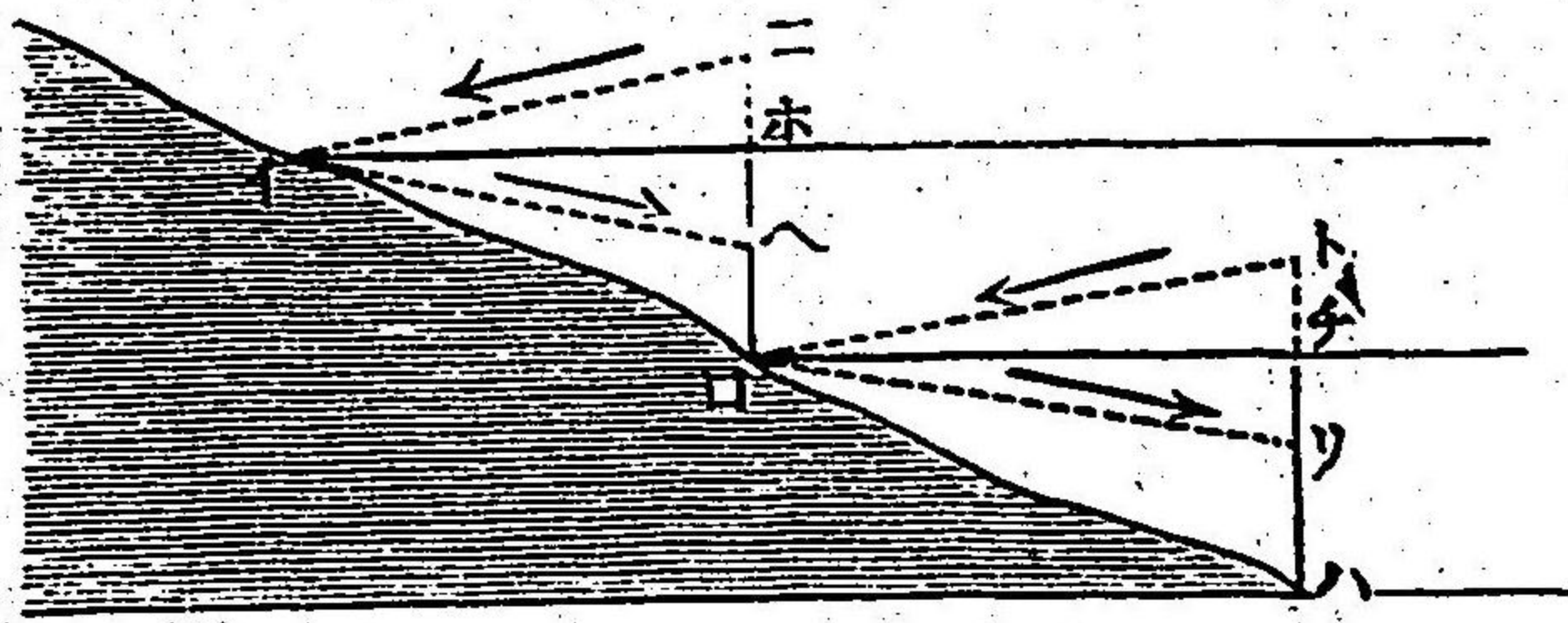
窪地(師範第三四頁、第十二行、中學第三二頁、第六行)の例は、オランダの海岸、ヨルダン河の流域の外に、裏海の沿岸、地中海面下二十米に達する所あり、特に北岸、リビヤ沙漠の北端に近き所(北緯二十九度、東經二十六度附近にして海面下七五米に達する所あり)、エジプトのエルファエム附近(海面下四〇米に達する所あり)、エリトリア(海面下六〇米に達す)及びフランス領ソマリランドの一部(海面下、一七四米に達す)、アルジェリヤンサハラ(海面下一七四米に達す)の

北部(北緯三十四度附近、東經六度乃至八度に亘り、區域廣し、海面下、三米に達する所あり)、コロラド沙漠(西經百十六度附近、北緯三三度附近にして、區域狹からず、海面下、九〇米に達する所あり)、南オーストラリアのアイヤ湖(湖面は、海面下、二米)等なり。

河の分裂(師範第七五頁第九行、中學第七二)の例は、アマゾンの外、左の如し。北部コーカシアのマニッチ河の上流、カラウス河は、時としては、分れて二派となり、西マニッチ河となるものは、遂にドン河に合し、東マニッチ河となるものは、遂に跡を滅して、裏海に達せず。又ロシアとスエーデンとの境をなせるトルネア河の本流は、分裂して、スエーデンのカリクスエルフ河に入る。又ドイツ國エムス河の支流、ハーゼは、其の上流に於て分裂し、ゾーゼル河の支流なるエルゼ河に合す。

セイシユ(師範第七八頁第九行、中)の現象あること、其の後、我が國の諸湖

に發見せられしが、又大坂灣にもこれを見る。故にセイシユは湖のみの現象に非ず



第十圖

### 三、氣界に關する事項。

樺太南部の最低氣温(師範第八九頁第二行、中學第一行)に就いては、前文日本の部、第二十三頁を見よ。

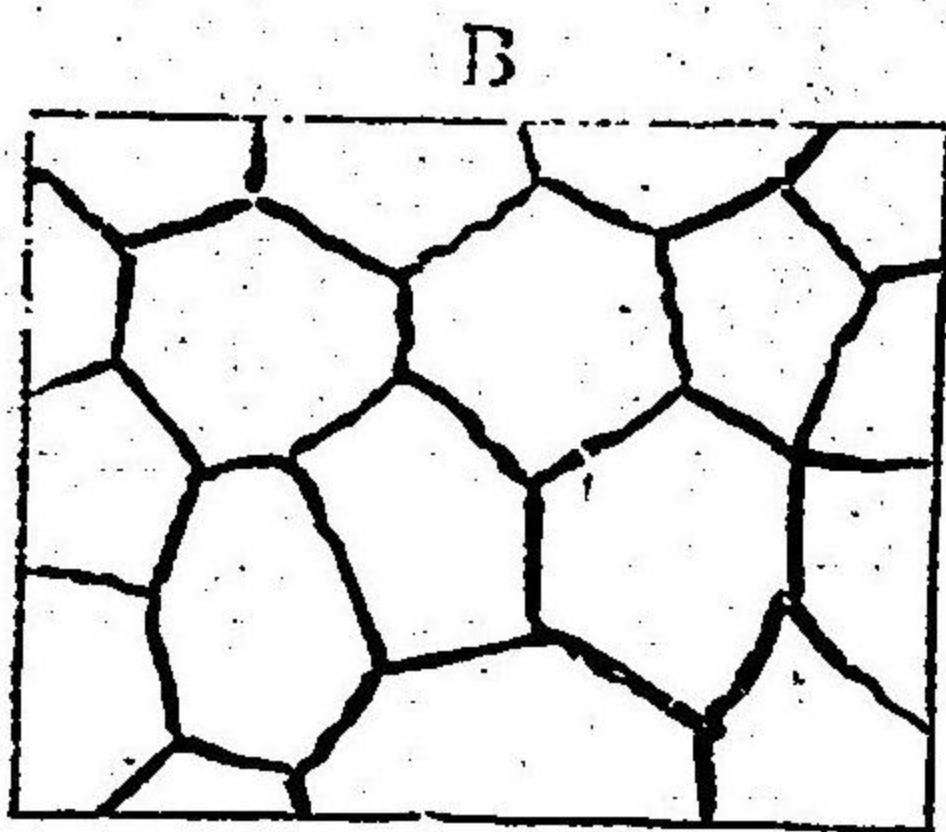
山風谷風の起因を説明する圖(師範、中學各)中、矢は、空氣の流動する方向、即ち風の方向にして、(イニ) (イヘ) (ロト) (ロリ)の線は、氣温の變化に伴ひ、上り下りせる等氣壓の氣層の面の切り口なり(第十一圖)。雲の海(師範第一〇六頁、中學第一〇六頁、女學第七四頁)の現象は、富士山に最も著し。

雪の現象が交通に及ぼせる影響(師範第一一〇頁、第一三行、中學第

第一〇二頁)の中「雪除け」を「雪止め」に改む。

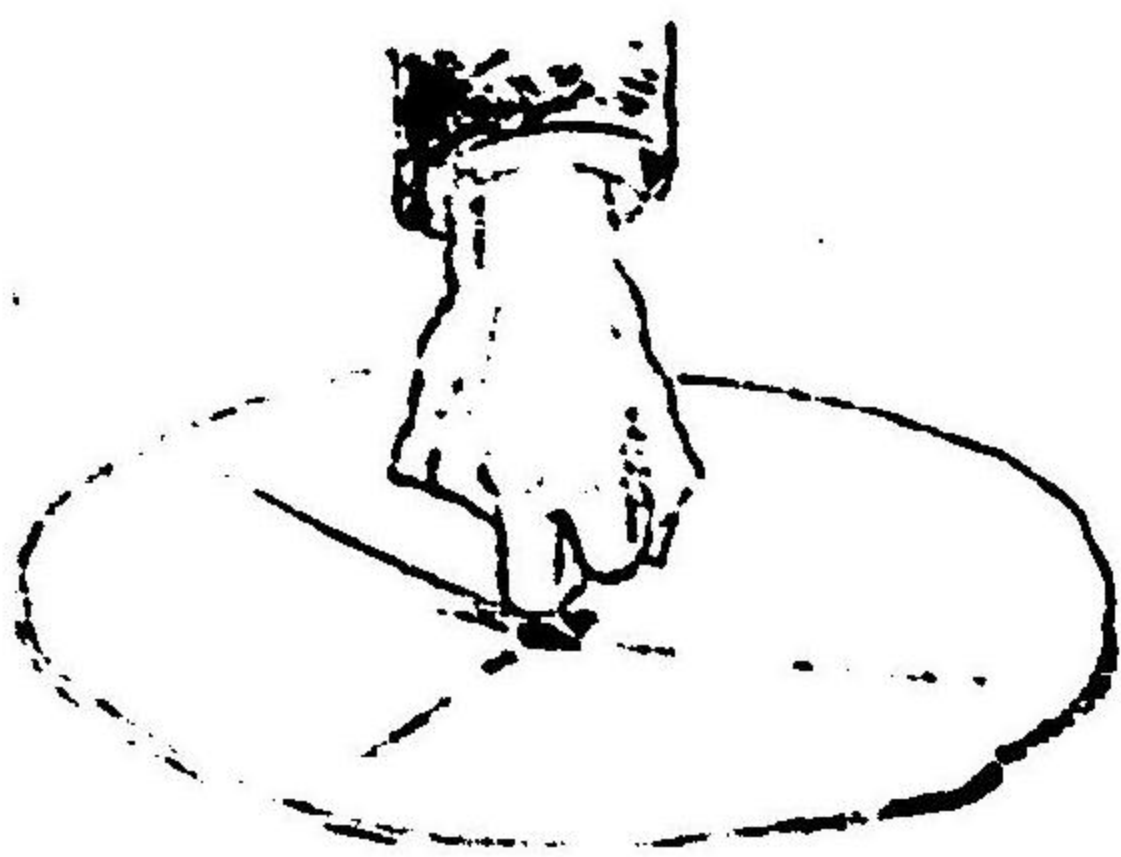
#### 四、水界及び地殻に関する事項。

鳴門の潮流(師範第一三九頁、中學第九九頁)は、附近の地盤に地動を起し、又天氣の有様によりては、地鳴を伴ふこと、近時發見せられたりと云ふ。



第二十圖

火山岩の六角形節理(師範)



第三十圖

第一四九頁、中學第一三八頁、女學第一〇六頁は、物理學上 Principle of Least Action にて説明し得べし。又これを實際に徴するに、深田又は泥土の龜裂は、第十二圖の如く、三本繋ぎにして、多く六角形をなし、又平き煎餅の如きものを打ち砕くに、第十三圖の如く、三方に

割れ目を生ずる等、皆同じ理による。此の實驗は、甚だ困難なるに似たれども、其の實、多少の熟練を経れば、十中七八は成功し、甚だ興味あるものなり。

#### 六 教師用參考書

教師用參考圖書に就ては、備考第一篇第二篇及び第三篇に述べたり。今左に其の書目を再び記載す。又〇印を附するものは、第一篇第二篇及び第三篇に未だ掲げざるものなり。

- イ、地理研究法に関するもの。
- ゲイキ、氏地理教授法。 Geikie—Teaching of Geography.
- パーカー、氏地理研究法。 Parker—How to study Geography.
- ロ、統計に関するもの。

日本帝國統計全書。東京統計協會創立二十五年祝典紀念編纂  
日本帝國統計年鑑。

政家年鑑。Statesman's Year-Book.

農商務統計表

大日本貿易年表。

世界年鑑。伊東祐毅氏編

○袖珍世界年鑑 同氏編  
ハ、地文地理に關するもの。

ハックスレー氏地文學。Huxley—Physiography.

タール氏地文學三種。Part—Elementary Physical Geography.

Part—First-Book of Physical Geography.

Part—New Physical Geography.

ソルントン氏地文學二種。Thornton—Advanced Physiography.

Thornton—Elementary Physiography.

デビス氏地文學。Davis—Physical Geography.

ゲイキー氏地文學。Geikie—Elementary Lessons in Physical Geography.

ヒューズ氏地文學。Hughes—Physical and Astronomical Geography.

○石川成章氏地文學講義 上下二冊

須藤傳次郎氏星學。

岡田武松氏近世氣象學。

馬場信倫氏氣象學。

ヤング氏普通星學。Young—General Astronomy.

○今村明恒氏地震學

ギルバート及びブリガム二氏地文學。



Gilbert and Brigham—An Introduction to Physical Geography.  
ニ人文地理に關するもの。

世界經濟地理(原料篇)。野口保興氏著。

トロッター氏商業地理。Procter—Geography of Commerce.

アダム氏商業地理。Adam—Commercial Geography.

レッドウェイ氏商業地理。Redway—Commercial Geography.

チゾーム氏商業地理。Chisholm—Hand-Book of Commercial Geography.

ホ、日本地理に關するもの。

○日本名勝地誌。博文館出版。

山崎佐藤二氏大日本地誌。

法規提要(内閣法制局編纂)

堀田璋左右氏日本歴史及び地理要覽。

日本重要水産動物植物圖及同解説。

ハ、一般地理に關するもの。

ヒュース氏近世地理集覽。Hughes—Compendium of Modern Geography.

ミル氏國際地理學。Mill—International Geography.

○タール・マンタマン・ニー氏地理全誌。Tarr and McN Murray—Complete Geography.

ヒュース氏高等地理。Hughes—Advanced Geography.

同氏地理集覽より程度少しく低きが如し。

スタンフォード氏地理提要。Stanford's Compendium of Geography and Travel.

Europe Vol. 1. The Countries of the Mainland. By Geo.

G. CHISHOLM.

—— Vol. 2. The North West. By Geo. G. CHISHOLM.

North America— Vol. 1. Canada and Newfoundland.

By SAMUEL EDWARD DAWSON.

—— Vol. 2. The United States. By HENRY GANNETT.

Australasia—Vol. 1. Australia and Newzealand. By ALFRED

RUSSEL WALLACE.

—— Vol. 2. Malaysia and the Pacific Archipelagos.

By F. H. H. GUILLEMAND.

Africa—Vol. 1. North Africa. By A. H. KEANE.

Africa—Vol. 2. South Africa. By A. H. KEANE.

Asia—Vol. 1. Northern and Eastern Asia. By A. H. KEANE

—— Vol. 2. Southern and Western Asia. By A. H. KEANE.  
Central and South America—Vol. 1. South America.  
By A. H. KEANE.  
—— Vol. 2. Central America and West Indies. By A. H.

KEANE.

ト東洋地理に關するもの。

ホーシト氏滿洲。Hosie—Manchuria.

ロシア政府編シベリア鐵道案内記。Official Guide to the Great Siberian Railway.

信夫淳平氏韓半島。

小藤金澤二氏朝鮮地名辭彙。

外務省調査滿洲及西伯利。

參謀本部編支那地誌(總體部滿洲部蒙古部)。

○守田利遠氏滿洲地誌。

南條高楠二氏佛領印度支那。

チ、地圖及び辭書に關するもの。

百萬分一日本帝國地形圖(農商務省地質調査所編纂)

スチーレル氏學校用地圖。

スチーレル氏袖珍地圖。

ワグネル氏學校用地圖。

Bartholomew—International Student Atlas.

Philip—Handy Volume Atlas.

○Chambers—Concise Gazetteer of the World.

Bartholomew—Pocket Atlas.

西伯利交通大地圖。

○野口氏地名人辭書。

ロシア東方部面經營圖。

リ、最近の事實に關するもの。

ロンドン皇立地學協會刊行地學雜誌。

東京地學協會刊行地學雜誌。

地質學雜誌。氣象集誌。統計集誌。外交時報。

通商彙纂。官報。ロンドンタイムス週刊。

右の外タイムスアトラス、スチーレルのハンドアトラス、大英百科字典、百萬分一日本帝國地質圖及び説明書は、地理教授の上に至大なる價値を有す。

外國之部追加

師範下卷第一七二頁第四行、中學第一五一頁第一行、女子第一五二頁第六行「ドイツ」の三字を除く。

ロシアは西暦一九〇五年八月六日、代議院の制を定め、以て立憲君主國となれり。然れども、代議院は、開會第一回に於て、甚しく政府と衝突し、終に解散を命ぜられ、今や朝黨民派の暗闘正に酣なり。將來の運命未だ豫測するに由なし。友邦の爲め深くこれを憾む。

山上地理教科書備考 第四篇 終

非 賣 品

明治三十九年十一月十二日印刷  
 明治三十九年十一月十五日發行

(地理備考第四篇)

著 者 山 上 萬 次 郎


發 行 者 兼 印 刷 者 東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地  
 大日本圖書株式會社

代 表 者 專務取締役 宮 川

發 行 所

東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地  
 大日本圖書株式會社

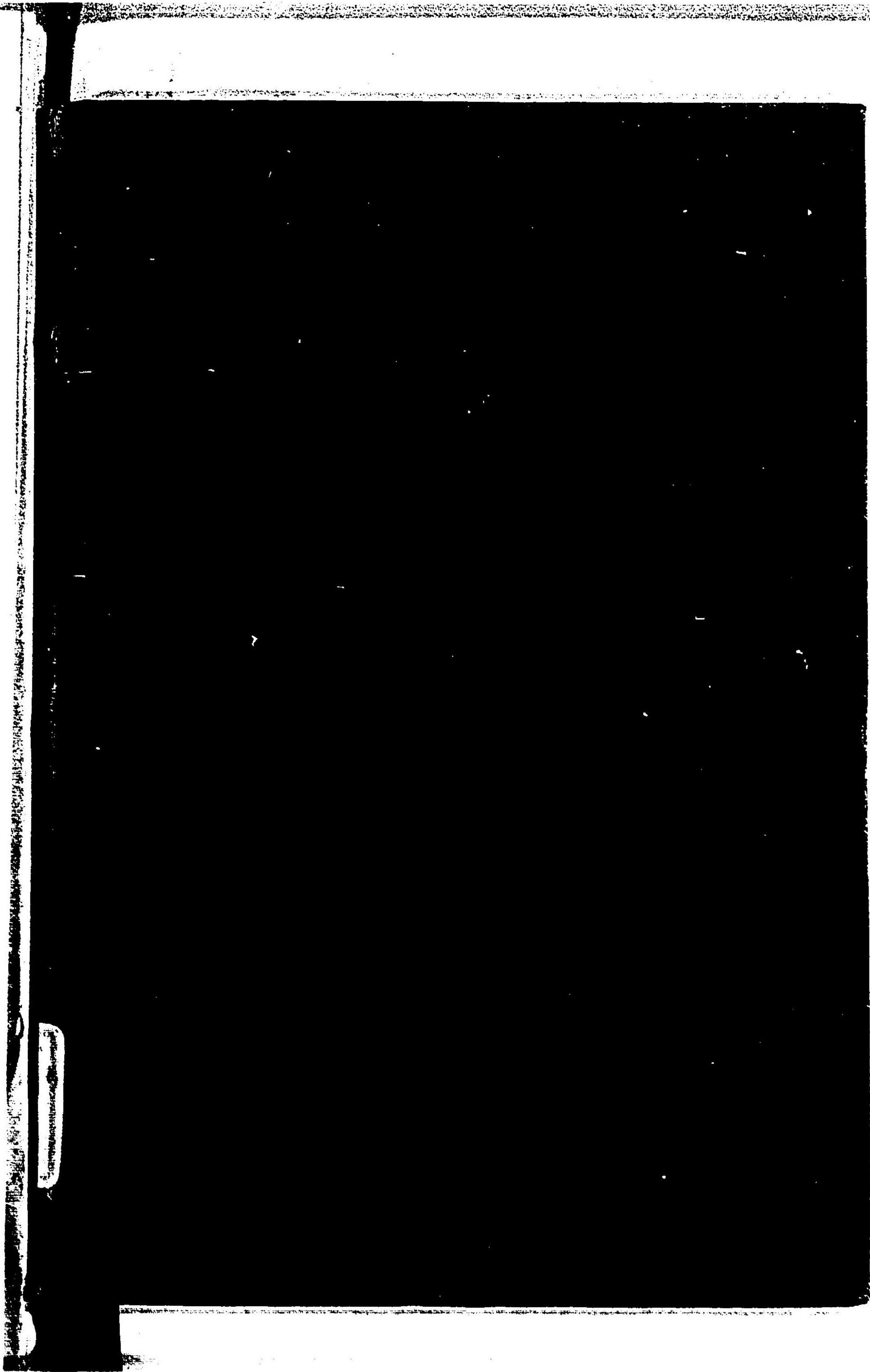
大阪市東區北久太郎町四丁目十七番屋敷  
 大日本圖書株式會社支社



大日本圖書株式會社特約販賣所

北海道 村上商店。川南。縣文會。二二堂。富貴堂。東京府 地球堂。藤江。藤江分店。寶文館。杉木。文  
 林堂。水野。東京堂。林平。丸善。青野。中西屋。杉村。有隣堂。中央堂。松邑。大倉。金朝。北陸館。三友。  
 振慶屋。内田。東海堂。文會堂。池田。其明堂。二松堂。慈山房。山岸。弘集堂。田沼。丸屋。正心  
 堂。新潟縣 高桑。高橋。覺張。野島。西村。中山。萬松堂支店。北光社。目黒。山本。柿村。越佐同盟書館。  
 水野。いづは堂。尙古堂。神戶縣 煥乎堂。淨觀堂。水田。多田屋。伊沼。明文  
 堂。川又。大塚屋。寺田。南龍堂。高木。宮田。板木。内山。永樂屋。平石。青木。川瀨。川瀨。永東。  
 吉見。谷崎屋。古澤。三原屋。大石。山崎。柳正堂。柳文堂。柳文堂支店。住。伊東。伊東。  
 日新堂。水琴堂。小林。朝陽館。西澤。西澤支店。盛文堂。丸山。藤崎。藤崎。松榮堂。中田。學海堂。伊吉。  
 文堂。上野屋。文港堂。佐藤。近藤。文明堂。青霞堂。今泉。今泉支店。伊吉。伊吉。  
 盛文堂。日向。牧野。相原。八文字屋。秋田縣 曙堂。東海林。藤崎。大澤。中田。學海堂。伊吉。  
 若林。文港堂。松田。南波。大阪府 中村。西島。金川。中川。柳原。小谷。松村。開盛館。寶文館。前川。丸  
 善。田中。三宅。石田。北村。本田。中井。竹内。大塚。熊谷。石田。藤浦。竹内。木村。藥師寺。四村。中  
 井。長崎縣 虎與號。集英堂。安屋。文進堂。文進堂支店。秋保館。大島。川崎。板有。  
 福井縣 中村。石川。宇都宮。近田。島田。今井。久松堂。安達。大島。川崎。板有。  
 前山。武内。開益堂。開文會。龜友堂。向井。土肥。足立。宮土越。平安堂。  
 靜壽堂。開益堂。開文會。龜友堂。向井。土肥。足立。宮土越。平安堂。  
 元里木。稻善館。世文社。金文堂。大甲。甲斐。野依。林洋。中園。佐野。中川。汲古堂。新高堂。  
 長崎。修進堂。谷。吉田。金光堂。上見城。小津。新高堂。

82  
580



82  
580

1



